

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	2020年1月31日
【事業年度】	第70期（自 2018年11月1日 至 2019年10月31日）
【会社名】	泉州電業株式会社
【英訳名】	SENSHU ELECTRIC CO.,LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 西村 元秀
【本店の所在の場所】	大阪府吹田市南金田一丁目4番21号
【電話番号】	(06)6384-1101
【事務連絡者氏名】	専務取締役兼執行役員管理本部長 成田 和人
【最寄りの連絡場所】	大阪府吹田市南金田一丁目4番21号
【電話番号】	(06)6384-1101
【事務連絡者氏名】	専務取締役兼執行役員管理本部長 成田 和人
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
決算年月	2015年10月	2016年10月	2017年10月	2018年10月	2019年10月
売上高 (百万円)	76,132	67,666	74,956	82,038	83,676
経常利益 (百万円)	2,740	2,978	3,455	4,105	4,206
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	1,570	1,585	2,289	2,371	2,714
包括利益 (百万円)	1,529	1,182	2,763	2,259	2,796
純資産額 (百万円)	34,391	34,727	37,086	38,368	39,749
総資産額 (百万円)	59,839	56,837	63,750	67,311	68,589
1株当たり純資産額 (円)	3,305.28	3,429.21	3,661.67	3,843.63	4,094.81
1株当たり当期純利益 (円)	150.11	155.21	226.59	236.36	277.04
潜在株式調整後1株当たり当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	57.3	61.0	58.0	56.8	57.7
自己資本利益率 (%)	4.7	4.6	6.4	6.3	7.0
株価収益率 (倍)	11.6	10.5	11.1	11.0	10.3
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	2,403	3,232	3,035	3,660	3,349
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	895	9	3,248	2,648	1,199
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	711	983	407	1,032	1,525
現金及び現金同等物の期末残高 (百万円)	13,270	15,412	14,833	14,798	15,430
従業員数 (人)	699	712	687	691	691
[外、平均臨時雇用者数]	[145]	[120]	[106]	[104]	[100]

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用しており、前連結会計年度に係る主要な経営指標等については、当該会計基準等を遡って適用した後の指標等となっております。

## (2) 提出会社の経営指標等

回次	第66期	第67期	第68期	第69期	第70期
決算年月	2015年10月	2016年10月	2017年10月	2018年10月	2019年10月
売上高 (百万円)	72,735	63,399	70,404	77,131	78,750
経常利益 (百万円)	2,779	3,061	3,334	3,844	3,858
当期純利益 (百万円)	1,667	2,049	2,298	2,204	2,222
資本金 (百万円)	2,575	2,575	2,575	2,575	2,575
発行済株式総数 (千株)	10,800	10,800	10,800	10,800	10,800
純資産額 (百万円)	33,133	34,259	36,521	37,612	38,429
総資産額 (百万円)	57,507	55,162	62,049	65,369	66,268
1株当たり純資産額 (円)	3,192.99	3,390.29	3,614.14	3,778.24	3,972.97
1株当たり配当額 (うち1株当たり中間配 当額) (円)	36.00 (18.00)	40.00 (20.00)	45.00 (20.00)	55.00 (25.00)	70.00 (35.00)
1株当たり当期純利益 (円)	159.41	200.63	227.49	219.74	226.83
潜在株式調整後1株当 り当期純利益 (円)	-	-	-	-	-
自己資本比率 (%)	57.6	62.1	58.9	57.5	58.0
自己資本利益率 (%)	5.1	6.1	6.5	5.9	5.8
株価収益率 (倍)	10.9	8.1	11.0	11.9	12.6
配当性向 (%)	22.58	19.94	19.78	25.03	30.86
従業員数 [外、平均臨時雇用者数] (人)	516 [143]	523 [119]	515 [103]	511 [97]	514 [94]
株主総利回り (比較指標：配当込み TOPIX (東証株価指数)) (%)	106.5 (119.1)	101.7 (108.8)	157.5 (140.9)	166.8 (134.1)	185.4 (139.3)
最高株価 (円)	2,190	1,767	2,600	3,900	2,950
最低株価 (円)	1,457	1,400	1,588	2,485	2,265

(注) 1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2. 第68期の1株当たり配当額45円には、東京証券取引所市場第一部指定に伴う記念配当5円を含んでおります。

3. 第70期の1株当たり配当額70円には、設立70周年に伴う記念配当10円を含んでおります。また、1株当たり中間配当額35円には、設立70周年に伴う記念配当5円を含んでおります。

4. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

5. 最高株価及び最低株価は、東京証券取引所(市場第一部)におけるものであります。

2【沿革】

年月	事項
1949年11月	資本金30万円で泉州電業株式会社を設立 (本社所在地：大阪府岸和田市並松町390番地、大阪営業所：大阪市北区梅ヶ枝町15番地)
1954年2月	広島市鉄砲町に広島出張所(現、広島支店)を開設
1958年11月	合同電気株式会社を吸収合併
1960年11月	東京都台東区に東京営業所(現、東京支店)を開設
1961年7月	本社を岸和田市より大阪市北区梅ヶ枝町へ移転し、大阪営業所を統合廃止
1962年6月	本社を大阪市北区梅ヶ枝町から大阪市北区兔我野町へ新築移転
1965年6月	大阪市住吉区に大阪南営業所を開設
1968年3月	大阪府茨木市に千里営業所を開設
1969年9月	札幌市北1条東に札幌営業所(現、札幌支店)を開設
1970年6月	大阪府吹田市に大阪支店(現、大阪本店)を開設し、千里営業所を大阪支店に統合廃止
1971年11月	神奈川県川崎市に川崎営業所を開設
1973年6月	富山県高岡市に高岡出張所(現、高岡営業所)を開設
1974年4月	福岡市博多区に福岡営業所(現、福岡支店)を開設
1974年4月	香川県高松市に高松出張所(現、高松支店)を開設
1977年5月	宮城県仙台市に仙台営業所(現、仙台支店)を開設
1977年10月	東京支店を東京都港区より神奈川県川崎市へ移転し、川崎営業所を統合廃止
1983年9月	愛知県豊橋市に豊橋営業所を開設
1984年8月	大阪支店にR D室(現、直需部製品課吹田加工センター)を設置し、電線のケーブルアッセンブリ(電線端末処理)を開始
1985年6月	斉藤電気株式会社を子会社として設立
1985年7月	大阪支店にS T E C 開発室を設置
1987年5月	埼玉県大宮市に埼玉営業所を開設
1989年4月	大阪府吹田市に本社事務センター(現、本社)を開設し、管理部門、開発部S T E C 室を移転
1989年9月	大阪府茨木市にR D 千里丘分室を開設
1991年6月	大阪証券取引所市場第二部(特別指定銘柄)に上場
1992年11月	アップルコンピュータ社の正規販売代理店として、子会社の株式会社エステック(現、連結子会社)を設立し、開発部S T E C 室部門の業務を移管
1993年11月	名古屋市西区に名古屋支店を開設
1994年11月	株式会社エステックが斉藤電気株式会社を吸収合併
1996年1月	大阪証券取引所市場第二部に指定
1996年6月	ヤスヰ電業株式会社(東京都目黒区)の全株式を取得し、当社の完全子会社化
1997年6月	情報通信事業部を設置
1998年4月	東京支店を神奈川県川崎市より東京都大田区へ移転
1998年4月	バンコクにタイ駐在員事務所を開設(現、SENSHU ELECTRIC INTERNATIONAL CO.,LTD.(現、連結子会社))
2001年11月	タイ王国に現地法人SENSHU ELECTRIC (THAILAND) CO.,LTD.(現、連結子会社)を設立
2002年11月	東京証券取引所市場第二部に上場
2004年1月	上海に現地法人上海泉秀国際貿易有限公司(現、連結子会社)を設立
2005年2月	いすゞ電業株式会社(東京都品川区)(現、連結子会社)の全株式を取得し、当社の完全子会社化
2006年10月	京都府八幡市に京滋営業所及び京都物流センターを開設
2008年5月	東京都八王子市に東京西営業所を開設
2010年11月	三光商事株式会社(大阪府吹田市)(現、連結子会社)の全株式を取得し、当社の完全子会社化
2011年5月	天津に上海泉秀国際貿易有限公司 天津分公司を開設
2012年11月	千葉県柏市に東京東営業所を開設
2013年5月	エヌビーエス株式会社(神奈川県伊勢原市)(現、連結子会社)の全株式を取得し、当社の完全子会社化

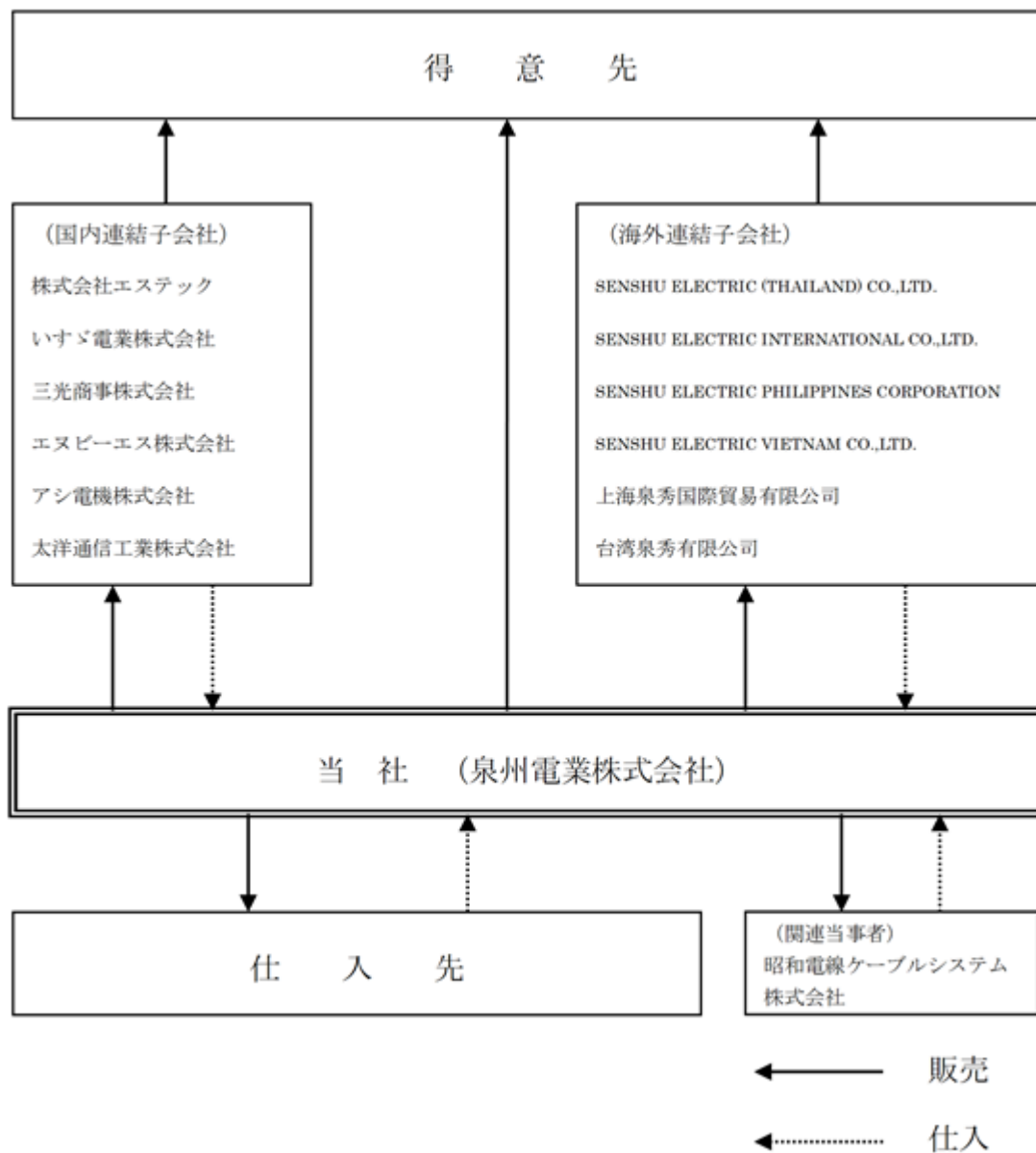
年月	事項
2013年5月	大阪南営業所を大阪市住吉区より大阪府松原市へ移転
2013年11月	いすゞ電業株式会社がヤスヰ電業株式会社を吸収合併
2014年10月	フィリピン ラグーナに現地法人SENSHU ELECTRIC PHILIPPINES CORPORATION (現、連結子会社) を設立
2015年3月	アシ電機株式会社(大阪府豊中市)(現、連結子会社)の全株式を取得し、当社の完全子会社化
2015年6月	太洋通信工業株式会社(大阪市西区)(現、連結子会社)の全株式を取得し、当社の完全子会社化
2016年1月	台北に現地法人台湾泉秀有限公司(現、連結子会社)を設立
2016年3月	本社を大阪市北区兎我野町から大阪府吹田市へ移転
2017年11月	東京証券取引所市場第一部に指定
2018年5月	栃木県宇都宮市に北関東特販営業所を開設
2018年10月	埼玉営業所をさいたま市北区より埼玉県上尾市へ移転
2019年5月	大阪物流センターを大阪府豊中市に開設
2019年10月	ベトナム ハノイに現地法人SENSHU ELECTRIC VIETNAM CO.,LTD.(現、連結子会社)を設立

### 3【事業の内容】

当社グループは、当社（泉州電業株式会社）、連結子会社12社（国内6社・海外6社）及び関連当事者1社で構成され、電線・ケーブル（機器用電線、通信用電線、電力用ケーブル、汎用被覆線等の電線類及び電線に附帯する各種電設資材）等の販売及び情報関連機器等の販売を主な内容とした事業活動を展開しております。

なお、当社グループは、電線・ケーブル事業の単一セグメントであるため、セグメント情報に関連付けた記載はしていません。

当社グループの状況について事業系統図を示すと次のとおりであります。



- (注) 1 . SENSHU ELECTRIC (THAILAND) CO.,LTD.は、2019年10月31日現在清算手続き中であります。  
 2 . 2019年10月1日にベトナムにSENSHU ELECTRIC VIETNAM CO.,LTD.を設立し、同社を連結子会社といたしました。

4【関係会社の状況】

名称	住所	資本金 (百万円)	主要な事業の内容	議決権の所有 (又は被所有) 割合(%)	関係内容
(連結子会社) 株式会社エステック	大阪府 吹田市	142	電線・ケーブル	100.0	当社商品の販売及び同社商品の仕入 当社建物を賃借 役員の兼任あり
いすゞ電業株式会社	東京都 品川区	98	電線・ケーブル	100.0	当社商品の販売及び同社商品の仕入 当社建物を賃借 当社より資金の借入 役員の兼任あり
三光商事株式会社	大阪府 吹田市	10	電線・ケーブル	100.0	当社商品の販売及び同社商品の仕入 当社建物を賃借 当社より資金の借入 役員の兼任あり
エヌピーエス株式会社	神奈川県 伊勢原市	10	電線・ケーブル	100.0	当社商品の販売及び同社商品の仕入 役員の兼任あり
アシ電機株式会社	大阪府 豊中市	10	電線・ケーブル	100.0	当社商品の販売及び同社商品の仕入 役員の兼任あり
太洋通信工業株式会社	大阪市 西区	50	電線・ケーブル	100.0	当社商品の販売及び同社商品の仕入 役員の兼任あり
SENSHU ELECTRIC (THAILAND) CO.,LTD. (注)2	タイ アユタヤ	8,500 (万タイバーツ)	電線・ケーブル	99.9	役員の兼任あり
SENSHU ELECTRIC INTERNATIONAL CO.,LTD. (注)3	タイ バンコク	600 (万タイバーツ)	電線・ケーブル	48.4	当社商品の販売及び同社商品の仕入 役員の兼任あり
SENSHU ELECTRIC PHILIPPINES CORPORATION (注)4	フィリピン ラゲーナ	16,500 (万フィリピンペソ)	電線・ケーブル	100.0	当社商品の販売及び同社商品の仕入 役員の兼任あり
SENSHU ELECTRIC VIETNAM CO.,LTD. (注)5	ベトナム ハノイ	160 (万米ドル)	電線・ケーブル	100.0	当社商品の販売及び同社商品の仕入 役員の兼任あり
上海泉秀国際貿易有限公司	中国 上海市	70 (万米ドル)	電線・ケーブル	100.0	当社商品の販売及び同社商品の仕入 役員の兼任あり
台湾泉秀有限公司	台湾 台北市	1,000 (万台湾ドル)	電線・ケーブル	100.0	当社商品の販売及び同社商品の仕入 役員の兼任あり

(注)1. 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2. SENSHU ELECTRIC (THAILAND) CO.,LTD.は、2019年10月31日現在清算手続き中であります。

3. SENSHU ELECTRIC INTERNATIONAL CO.,LTD.の持分は100分の50以下であります。実質的に支配しているため子会社としております。

4. SENSHU ELECTRIC PHILIPPINES CORPORATIONは特定子会社に該当しております。

5. 2019年10月1日にベトナムにSENSHU ELECTRIC VIETNAM CO.,LTD.を設立し、同社を連結子会社といたしました。

## 5【従業員の状況】

### (1) 連結会社の状況

2019年10月31日現在

従業員数(人)
691 (100)

- (注) 1. 臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。  
2. 当社グループは、「電線・ケーブル」の単一セグメントであるため、グループ全体での従業員数を記載しております。

### (2) 提出会社の状況

2019年10月31日現在

従業員数(人)	平均年令(才)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(円)
514 (94)	38.0	14.5	5,978,484

- (注) 1. 臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。  
2. 平均年間給与(税込み)は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。  
3. 当社は、「電線・ケーブル」の単一セグメントであるため、当社全体での従業員数を記載しております。

### (3) 労働組合の状況

労働組合は結成されておりませんが、労使関係は円満に推移しております。



## 第2【事業の状況】

### 1【経営方針、経営環境及び対処すべき課題等】

文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において当社グループが判断したものであります。

#### (1) 経営方針

当社グループは、「新しい価値を創造して、能力を発揮し、社業の発展に努め、社会に貢献するとともに、株主に報い、従業員の福利厚生を図る」との経営理念のもと、これまで培った経験、知識、技術をもとに新たな発想と積極的な行動により、絶えず変化する市場ニーズに適合した商品、サービスの提供を行うとともに地球環境の保全に取り組み、社会にとって価値ある企業であり続けることを基本方針としております。

#### (2) 目標とする経営指標

当社グループは、2017年10月期から2021年10月期までの5カ年を対象とした「泉州電業グループ中期経営計画」を策定し、推進しております。

当中期経営計画は、100年企業を目指すため、設立70周年（2019年11月）を通過点とする2021年までの5カ年を更なる飛躍を目指す期間と位置付け、収益の長期安定化と持続的成長を継続することを基本方針と定め、最終年度に売上高100,000百万円、経常利益5,000百万円、ROE（株主資本利益率）6%以上の達成を経営数値目標としております。

#### (3) 経営環境

今後のわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって景気は緩やかに回復していくことが期待されるものの、米中貿易摩擦を始めとする通商問題を巡る緊張、中国経済の先行き、英国のEU離脱の行方等の海外経済の動向等、先行き不透明な状況で推移するものと思われま

#### (4) 中長期的な会社の経営戦略及び対処すべき課題

ますます進展する経済の国際化に伴う競争の激化や企業のグローバル化など、企業を取り巻く環境は厳しさを増しております。

当社は100年企業を目指すため、設立70周年（2019年11月）を通過点とする2017年から2021年までの5カ年を更なる飛躍を目指す期間と位置付け、収益の長期安定化と持続的成長を継続していくために、以下経営戦略を実行し、企業価値の向上に努めてまいります。

第一に、技術商社としてメーカーと共同で新たなオリジナル商品の開発を進めて行くとともに、加工部門の強化を図り、ユーザーニーズに応えてまいります。

第二に、各営業拠点の営業・物流機能を拡充し、ジャスト・イン・タイム体制を充実させることにより、今後もより一層スピーディでタイムリーな商品提供を行ってまいります。

第三に、中長期的に需要の増加が見込まれる産業機械向けFAケーブル等の売上構成比を高め、利益率の向上を図ってまいります。

第四に、全国における電線・ケーブル需要の3分の1を占める関東・東京地区での営業強化及び東京オリンピック関連需要の受注活動を図るとともに、その他地区においてもシェア拡大を目指してまいります。

第五に、非電線の新商品開発、拡販及び新分野の開拓に積極的に取り組み、当社自社ブランドによる販売など銅価格の変動に左右されない安定した売上の確保に取り組んでまいります。

第六に、海外での収益拡大のため、海外連結子会社との連携を強化し、海外市場の販路拡大をはじめとするグローバル展開の強化を図ってまいります。

第七に、ISO9001とISO14001の活動をより推進するためISO2015年版へ移行し、引き続き環境問題へ配慮をしつつ、これまで以上に継続的な業務改善とサービス向上に努めるとともに、更なる品質管理体制の強化を図ってまいります。

第八に、利益体質を強化し、競争力を高め、更なる成長を遂げることを目的として、仕入、物流、人事、商品開発の第二次構造改革を推進するとともに、継続的なコスト削減を実施してまいります。

第九に、企業として求められる社会的責任を遂行するためコンプライアンスの徹底と内部管理体制の強化を図るとともに、危機管理体制を継続的に整備してまいります。

第十に、当社及び連結子会社12社（国内6社・海外6社）の特性を生かしてシナジー効果を高め、当社グループの収益力の向上に取り組んでまいります。

## 2【事業等のリスク】

有価証券報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項については、以下のようなものがあります。

なお、本項目に含まれる将来に関する事項は、有価証券報告書提出日現在において判断したものであります。

### (1) 経済情勢・需要変動等について

当社グループの商品需要は国内の経済情勢及び景気動向の影響を受け、特に主要取扱商品である電線・ケーブルは設備投資向けであるため、建設需要の動向、企業の設備投資動向の程度によっては、当社グループの業績に影響を及ぼす可能性があります。

### (2) 銅価格の変動について

当社グループの主要取扱商品である電線・ケーブルは主材料が銅であるため、銅の国際相場の変動により仕入価格が大きく変動することがあります。販売価格も銅の価格にスライドする慣習となっておりますが、仕入価格がすぐに販売価格に転嫁できない場合は損益に影響を及ぼす可能性があります。また、損益には影響がない場合でも売上高は大きく変動する可能性があります。

### (3) 保有有価証券の時価下落について

当社グループは企業間取引の維持・強化のため、取引先の株式を保有しており、また資金運用のため一定額の有価証券を保有しており急激な株式市況の悪化により、損益を悪化させ、また、純資産を減少させる可能性があります。

### (4) 事業内容悪化による減損について

当社グループは各事業所用地を自社で所有しておりますが、取得価額に比べて時価の下落しているものもあり、個々の事業所の収益力が悪化した場合は減損損失が発生する可能性があります。

### (5) 取扱商品の品質について

当社グループの取扱商品に品質不良等が発生した場合、原則製造元が当該商品の原因調査及び代替品の提供を行うことになっておりますが、当社グループが顧客より訴訟等の方法で損害賠償請求等を受ける可能性があります。

当社グループでは、このような事態が生じないように、PL保険の加入及び製造元の管理を含め品質管理体制の整備に注力しておりますが、予測を超えた事象により、取扱商品に品質不良等が生じた場合、当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

### (6) 海外事業について

当社グループの海外拠点は中国・東南アジア地区に設立しており、当該地区における経済動向や政治・社会情勢等の変化、法律や規制の変更等により、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

### (7) 情報管理について

当社グループは、「情報セキュリティ基本方針」のもと、情報流出の防止、外部からのシステム侵入への対応に努めております。しかしながら予期せぬ事態により情報システムの停止や情報流出等が発生した場合、当社グループの業績及び財政状態に悪影響を及ぼす可能性があります。

### (8) 自然災害等について

大規模な地震やその他の自然災害等が発生した場合、当社グループの事業拠点が被害を受けた場合及び顧客に対する商品供給遅延等により、一時的に当社グループの業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

### 3【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 経営成績等の状況の概要

当連結会計年度における当社グループ（当社及び連結子会社）の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フロー（以下「経営成績等」という。）の状況の概要は次のとおりであります。

##### 財政状態及び経営成績の状況

当連結会計年度におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続き、景気は緩やかな回復基調で推移したものの、米中貿易摩擦の長期化に伴う中国経済の減速や、海外経済の動向と政策に関する不確実性などもあり、先行き不透明な状況で推移いたしました。

当社グループの係わる電線業界におきましては、電線の主材料である銅の価格が、1トン当たり期中平均706千円と前期平均777千円に比べ9.1%下落いたしました（銅価格の推移、1トン当たり期初720千円、安値640千円（2019年8月）、高値770千円（2019年2月）、期末680千円）。また、建設・電販向けの出荷量は、前期に比べ増加基調で推移いたしました。

このような情勢のもとで当社グループは、提案型営業の推進、配送体制の強化、新規得意先の開拓及び既存得意先の深耕、新商品の拡販など積極的な営業展開を図りました。

また、販売体制及び物流機能の強化を図るため、2019年5月には当社吹田物流センター（大阪府吹田市）より移転・拡充した当社大阪物流センター（大阪府豊中市）を開設し、2019年8月には当社東京西営業所（東京都八王子市）を移転・拡充いたしました。

それに加えて、2019年10月には、グローバル展開の強化を図るため、ベトナムにSENSHU ELECTRIC VIETNAM CO.,LTD.を設立いたしました。

この結果、当連結会計年度の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

##### a．財政状態

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）を当連結会計年度の期首から適用しており、財政状態については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度末との比較・分析を行っております。

当連結会計年度末の資産合計は、前連結会計年度に比べ1,277百万円増加し、68,589百万円となりました。

当連結会計年度末の負債合計は、前連結会計年度に比べ102百万円減少し、28,840百万円となりました。

当連結会計年度末の純資産合計は、前連結会計年度に比べ1,380百万円増加し、39,749百万円となりました。

##### b．経営成績

当連結会計年度の経営成績は、銅価格の下落による販売価格の低下要因や、米中貿易摩擦等の影響を受け、民間設備投資向け電線の一部で需要の減少があったものの、建設需要が堅調に推移したことにより、売上高は83,676百万円（前期比2.0%増）、営業利益は3,979百万円（前期比2.9%増）、経常利益は4,206百万円（前期比2.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は2,714百万円（前期比14.5%増）となりました。

なお、当社グループは、電線・ケーブル事業の単一セグメントであるため、セグメントごとの経営成績の記載を省略しております。

##### キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度における連結ベースの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、15,430百万円で前連結会計年度に比べて631百万円の増加となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

##### （営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は、3,349百万円となりました。これは主に税金等調整前当期純利益4,019百万円、減価償却費543百万円等の収入に対し、役員退職慰労引当金の減少528百万円、仕入債務の減少158百万円、売上債権の増加144百万円、法人税等の支払1,432百万円等の支出によるものであります（前連結会計年度は資金の増加3,660百万円）。

##### （投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、1,199百万円となりました。これは主に定期預金の払戻による収入634百万円、貸付金の回収による収入257百万円等の収入に対し、有形固定資産の取得による支出1,651百万円、定期預金の預入による支出541百万円等の支出によるものであります（前連結会計年度は資金の減少2,648百万円）。

##### （財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は、1,525百万円となりました。これは主に配当金の支払642百万円、自己株式の取得による支出821百万円等の支出によるものであります（前連結会計年度は資金の減少1,032百万円）。

生産、受注及び販売の実績

当社グループは、「電線・ケーブル」のみの単一セグメントのため、単一セグメントで表示しております。

当社グループは、卸商社でありますので生産及び受注の状況は記載しておりません。

販売実績

当連結会計年度における販売実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	当連結会計年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)	前年同期比(%)
電線・ケーブル(百万円)	83,676	102.0
合計(百万円)	83,676	102.0

(注) 1. 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2. 電線の主材料である銅の期中平均価格は、前期に比べ9.1%下落しております。

(2) 経営者の視点による経営成績等の状況に関する分析・検討内容

経営者の視点による当社グループの経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容は次のとおりであります。

なお、文中の将来に関する事項は、当連結会計年度末現在において判断したものであります。

重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成しておりますが、この連結財務諸表の作成にあたっては、一定の会計基準の範囲内で見積りが行われている部分があり、資産・負債や収益・費用の数値に反映されております。これらの見積りについては、継続して評価し、必要に応じて見直しを行っておりますが、見積りには不確実性が伴うため、実際の結果は、これらとは異なることがあります。

当連結会計年度の経営成績等の状況に関する認識及び分析・検討内容

(イ) 財政状態の分析

当連結会計年度末の資産につきましては、資産合計は68,589百万円で前連結会計年度末に比べて1,277百万円の増加となりました。

(資産の部)

流動資産は44,512百万円で現預金が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて768百万円の増加となり、固定資産は24,077百万円で有形固定資産が増加したことなどにより、前連結会計年度末に比べて509百万円の増加となりました。

(負債の部)

負債につきましては、負債合計は28,840百万円で前連結会計年度末に比べて102百万円の減少となりました。流動負債は26,049百万円で仕入債務が減少したことなどにより、前連結会計年度末に比べて130百万円の減少となり、固定負債は2,790百万円で前連結会計年度末に比べて27百万円の増加となりました。

(純資産の部)

純資産につきましては、純資産合計は39,749百万円で前連結会計年度末に比べて1,380百万円の増加となりました。増加の主な要因は、自己株式の取得による減少があったものの、利益の内部留保により利益剰余金が増加したことなどによります。

(ロ) 経営成績の分析

当連結会計年度の売上高は83,676百万円（前期比2.0%増）となり、営業利益は3,979百万円（前期比2.9%増）、経常利益は4,206百万円（前期比2.5%増）、親会社株主に帰属する当期純利益は2,714百万円（前期比14.5%増）となりました。

(売上高)

「第2 事業の状況 3 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

(1) 経営成績等の状況の概要」に記載しております。

(営業利益、経常利益)

営業利益及び経常利益につきましては、銅価格の下落による販売価格の低下要因や、米中貿易摩擦等の影響を受け、民間設備投資向け電線の一部で需要の減少があったものの、建設需要が堅調に推移したことにより、売上総利益は前連結会計年度に比べて391百万円（3.1%）の増加となりました。また、販売費及び一般管理費は、前連結会計年度に比べて280百万円（3.1%）増加しましたが、営業利益は前連結会計年度に比べて110百万円（2.9%）の増加となりました。営業利益に営業外損益を加えた経常利益は、前連結会計年度に比べて101百万円（2.5%）の増加となりました。

(親会社株主に帰属する当期純利益)

経常利益に特別損益を加えた税金等調整前当期純利益は、前連結会計年度に比べて294百万円（7.9%）の増加となり、親会社株主に帰属する当期純利益は前連結会計年度に比べて343百万円（14.5%）の増加となりました。

(3) 資本の財源及び資金の流動性に係る情報

当社グループの運転資金需要のうち主なものは、商品の仕入、販売費及び一般管理費の営業費用であります。投資を目的とした資金需要のうち主なものは、設備の新設のための設備投資であります。

これらの資金需要については、営業活動によるキャッシュ・フロー及び自己資金、必要に応じて取引銀行からの借入等により資金を調達しております。なお、設備投資額及び設備投資予定額につきましては、「第3 設備の状況」に記載のとおりであります。

資金の流動性については、現金及び現金同等物に加え、取引銀行との間で当座貸越契約を締結しており、事業活動のために必要な資金の確保と流動性を維持しております。

(4) 経営方針・経営戦略、経営上の目標の達成状況を判断するための客観的な指標等

当社グループは、2017年10月期から2021年10月期までの5ヵ年を対象とした「泉州電業グループ中期経営計画」を策定し、推進しております。

当中期経営計画は、100年企業を目指すため、設立70周年（2019年11月）を通過点とする2021年までの5ヵ年を更なる飛躍を目指す期間と位置付け、収益の長期安定化と持続的成長を継続することを基本方針と定め、最終年度に売上高100,000百万円、経常利益5,000百万円、ROE（株主資本利益率）6%以上の達成を経営数値目標としております。

当中期経営計画の3ヵ年目である当連結会計年度につきましては、売上高は83,676百万円（進捗率83.7%）、経常利益は4,206百万円（進捗率84.1%）、ROEは7.0%（進捗率116.7%）となり、目標値に対して順調に進捗しております。

今後も収益の長期安定化と持続的成長に向け、経営数値目標の達成に取り組んでまいります。

4【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

5【研究開発活動】

特記すべき事項はありません。

### 第3【設備の状況】

#### 1【設備投資等の概要】

当社グループの当連結会計年度における設備投資の総額は1,363百万円であります。

電線・ケーブルにおいては、当社大阪物流センター移転建物取得に799百万円、当社東京西営業所移転建物取得に427百万円の設備投資を実施しました。

なお、当連結会計年度における重要な影響を及ぼす設備の売却、除去等はありません。

#### 2【主要な設備の状況】

当社グループにおける主要な設備は、次のとおりであります。

##### (1) 提出会社

2019年10月31日現在

事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
		建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
大阪本店 (大阪府吹田市)	事務所・倉庫	1,990	289	3,394 (15,992) [1,305]	101	42	5,819	133 (18)
東京支店 (東京都品川区)	事務所・倉庫	644	22	2,578 (7,945) [-]	-	2	3,248	60 (8)
名古屋支店 (名古屋市西区)	事務所・倉庫	193	8	990 (6,797) [943]	0	4	1,197	54 (6)
その他営業所他 (福岡市博多区他)	事務所・倉庫	3,957	169	3,450 (50,971) [1,818]	0	1,147	8,726	267 (62)

##### (2) 国内子会社

2019年10月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
株式会社エステック 他5社	本店 (大阪府吹田市)	事務所	38	2	135 (1,204)	4	604	784	100 (5)

##### (3) 在外子会社

2019年10月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	設備の内容	帳簿価額						従業員数 (人)
			建物及び 構築物 (百万円)	機械装置及 び運搬具 (百万円)	土地 (百万円) (面積㎡)	リース資産 (百万円)	その他 (百万円)	合計 (百万円)	
SENSHU ELECTRIC INTERNATIONAL CO.,LTD. 他5社	本店 (タイ バンコク)	工場	0	8	- (-)	-	3	12	77 (1)

(注) 1. 帳簿価額のうち「その他」は、「工具、器具及び備品」、「投資不動産」であり、「建設仮勘定」を含んでおりません。

2. 賃借している土地の面積については[ ]内に外数で記載しております。

3. 臨時雇用者数は( )内に年間の平均人員を外数で記載しております。

4. 当社グループは、「電線・ケーブル」の単一セグメントであるため、セグメントの名称は記載しておりません。

### 3 【設備の新設、除却等の計画】

当連結会計年度末現在における重要な設備の新設、拡充等の計画はありません。

## 第4【提出会社の状況】

### 1【株式等の状況】

#### (1)【株式の総数等】

##### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	43,200,000
計	43,200,000

##### 【発行済株式】

種類	事業年度末現在発行数 (株) (2019年10月31日)	提出日現在発行数 (株) (2020年1月31日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	10,800,000	10,800,000	東京証券取引所 (市場第一部)	単元株式数100株
計	10,800,000	10,800,000	-	-

#### (2)【新株予約権等の状況】

##### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

##### 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

#### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

#### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
2005年8月16日 (注)	500,000	10,800,000	360	2,575	360	3,372

(注)有償一般募集

発行株式数 500,000株  
 発行価格 1,527円  
 資本組入額 720円



(5) 【所有者別状況】

2019年10月31日現在

区分	株式の状況(単元株式数 100株)							単元未満株式の状況(株)	
	政府及び地方公共団体	金融機関	金融商品取引業者	その他の法人	外国法人等		個人その他		計
					個人以外	個人			
株主数(人)	-	25	19	67	79	10	6,139	6,339	-
所有株式数(単元)	-	19,747	501	10,265	16,800	10	60,592	107,915	8,500
所有株式数の割合(%)	-	18.30	0.46	9.51	15.57	0.01	56.15	100.00	-

(注) 自己株式1,127,181株は、「個人その他」に11,271単元、「単元未満株式の状況」に81株含まれております。

(6) 【大株主の状況】

2019年10月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数(千株)	発行済株式(自己株式を除く。)の総数に対する所有株式数の割合(%)
みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 昭和電線ホールディングス他口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社	東京都中央区晴海1丁目8番12号 晴海アイランド トリトンスクエア オフィスタワーZ棟	1,000	10.33
ビービーエイチフォーフィデリティロープライズドストックファンド(プリンシパルオールセクターサポートフォリオ)	245 SUMMER STREET BOSTON, MA 02210 U.S.A.	884	9.14
(常任代理人 株式会社三菱UFJ銀行決済事業部)	(東京都千代田区丸の内2丁目7番1号)		
西村 元秀	大阪府豊中市	783	8.09
西村 陽子	大阪府吹田市	529	5.47
西村 和彦	大阪府吹田市	348	3.60
泉州電業従業員持株会	大阪府吹田市南金田1丁目4番21号	268	2.77
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	東京都港区浜松町2丁目11番3号	264	2.73
高橋 京子	相模原市南区	225	2.33
泉州産業株式会社	大阪市北区兎我野町2番4号	207	2.14
上嶋 明子	兵庫県芦屋市	157	1.63
計	-	4,668	48.26

(注) 1. 当社は自己株式1,127,181株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

2. みずほ信託銀行株式会社 退職給付信託 昭和電線ホールディングス他口 再信託受託者 資産管理サービス信託銀行株式会社の所有株式は、退職給付信託の信託財産であり、その議決権行使の指図権は昭和電線ホールディングス株式会社が留保しております。

(7) 【議決権の状況】  
 【発行済株式】

2019年10月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,127,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 9,664,400	96,644	-
単元未満株式	普通株式 8,500	-	-
発行済株式総数	10,800,000	-	-
総株主の議決権	-	96,644	-

【自己株式等】

2019年10月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
泉州電業株式会社	大阪府吹田市南金田1丁目4番21号	1,127,100	-	1,127,100	10.43
計	-	1,127,100	-	1,127,100	10.43

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】

会社法第155条第3号に該当する普通株式の取得及び会社法第155条第7号に該当する普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(2018年12月10日)での決議状況 (取得期間 2018年12月11日~2019年4月30日)	150,000	500,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	150,000	413,581
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	86,418
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	17.3
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	-	17.3

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(2019年6月4日)での決議状況 (取得期間 2019年6月5日~2019年10月31日)	150,000	500,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	150,000	407,552
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	92,447
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	18.5
当期間における取得自己株式	-	-
提出日現在の未行使割合(%)	-	18.5

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
取締役会(2019年12月9日)での決議状況 (取得期間 2019年12月10日~2020年4月30日)	170,000	500,000
当事業年度前における取得自己株式	-	-
当事業年度における取得自己株式	-	-
残存決議株式の総数及び価額の総額	-	-
当事業年度の末日現在の未行使割合(%)	-	-
当期間における取得自己株式	96,700	325,866
提出日現在の未行使割合(%)	43.1	34.8

(注)「当期間における取得自己株式」欄には、2020年1月1日からこの有価証券報告書提出日までの取得自己株式は含めておりません。

(3)【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	105	288
当期間における取得自己株式	20	68

(注)「当期間における取得自己株式」欄には、2020年1月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる取得自己株式は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)	株式数(株)	処分価額の総額 (千円)
引き受ける者の募集を行った取得自己株式	-	-	-	-
消却の処分を行った取得自己株式	-	-	-	-
合併、株式交換、会社分割に係る移転を行った取得自己株式	-	-	-	-
その他 (譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分)	17,900	47,828	-	-
保有自己株式数	1,127,181	-	1,223,901	-

(注) 1. 「その他」欄の当期間については、2020年1月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買増請求により処分及び売却した自己株式は含めておりません。

2. 「保有自己株式数」欄の当期間については、2020年1月1日からこの有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取りによる取得自己株式数及び単元未満株式の買増請求により処分及び売却した自己株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社は、利益配分につきましては、安定的な配当を維持することを基本方針として、当期の業績、内部留保の水準等を考慮し、総合的に判断してまいります。

当社は、中間配当と期末配当の年2回の剰余金の配当を行うことを基本方針としております。

これらの剰余金の配当の決定機関は、期末配当については株主総会、中間配当については取締役会であります。

当事業年度の配当につきましては、中間配当は普通配当30円に設立70周年の記念配当として5円増配し、1株当たり35円を実施し、期末配当につきましても同様に、普通配当30円に設立70周年の記念配当として5円増配し、1株当たり35円(年間70円)といたしました。

また、内部留保資金につきましては、経営基盤の強化並びに事業展開の拡大に必要な資金として有効活用してまいりたいと存じます。

当社は、「取締役会の決議によって、毎年4月30日を基準日として中間配当をすることができる。」旨を定款に定めております。

なお、当事業年度に係る剰余金の配当は次のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (百万円)	1株当たり配当額 (円)
2019年6月4日 取締役会決議	343	35
2020年1月30日 定時株主総会決議	338	35

## 4【コーポレート・ガバナンスの状況等】

### (1)【コーポレート・ガバナンスの概要】

コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社は、当社の持続的な成長及び中長期的な企業価値の向上を図る観点から、意思決定の透明性・公正性を確保するとともに、保有する経営資源を十分有効に活用し、迅速・果敢な意思決定により経営の活力を増大させることがコーポレート・ガバナンスの要諦であると考え、次の基本的な考え方に沿って、コーポレート・ガバナンスの充実に取り組んでおります。

- 1.株主の権利を尊重し、平等性を確保する。
- 2.株主を含むステークホルダーの利益を考慮し、それらステークホルダーと適切に協働する。
- 3.会社情報を適切に開示し、透明性を確保する。
- 4.取締役会による業務執行の監督機能の実効性確保に努める。
- 5.株主との間で建設的な対話を行う。

企業統治の体制の概要及びこの体制を採用する理由

当社は監査役会設置会社であります。

当社の取締役会は、取締役西村元秀、西村和彦、田原隆男、吉田篤弘、成田和人、富永光明、深田喜代人、宇正闘曜、島岡修子及び花山昌典の10名と、社外取締役宗岡 徹及び近藤剛史の2名の計12名（内、社外取締役2名）で構成され、毎月1回開催するほか、必要に応じ臨時取締役会を開催し、取締役西村元秀を議長として法令で定められた事項や経営に関する重要事項の決定及び業務執行状況を監督しております。

会社業務執行に関する重要事項の審議・決定及び取締役会の事前審査機関として、役付取締役全員で構成される経営会議を毎月1回開催しております。

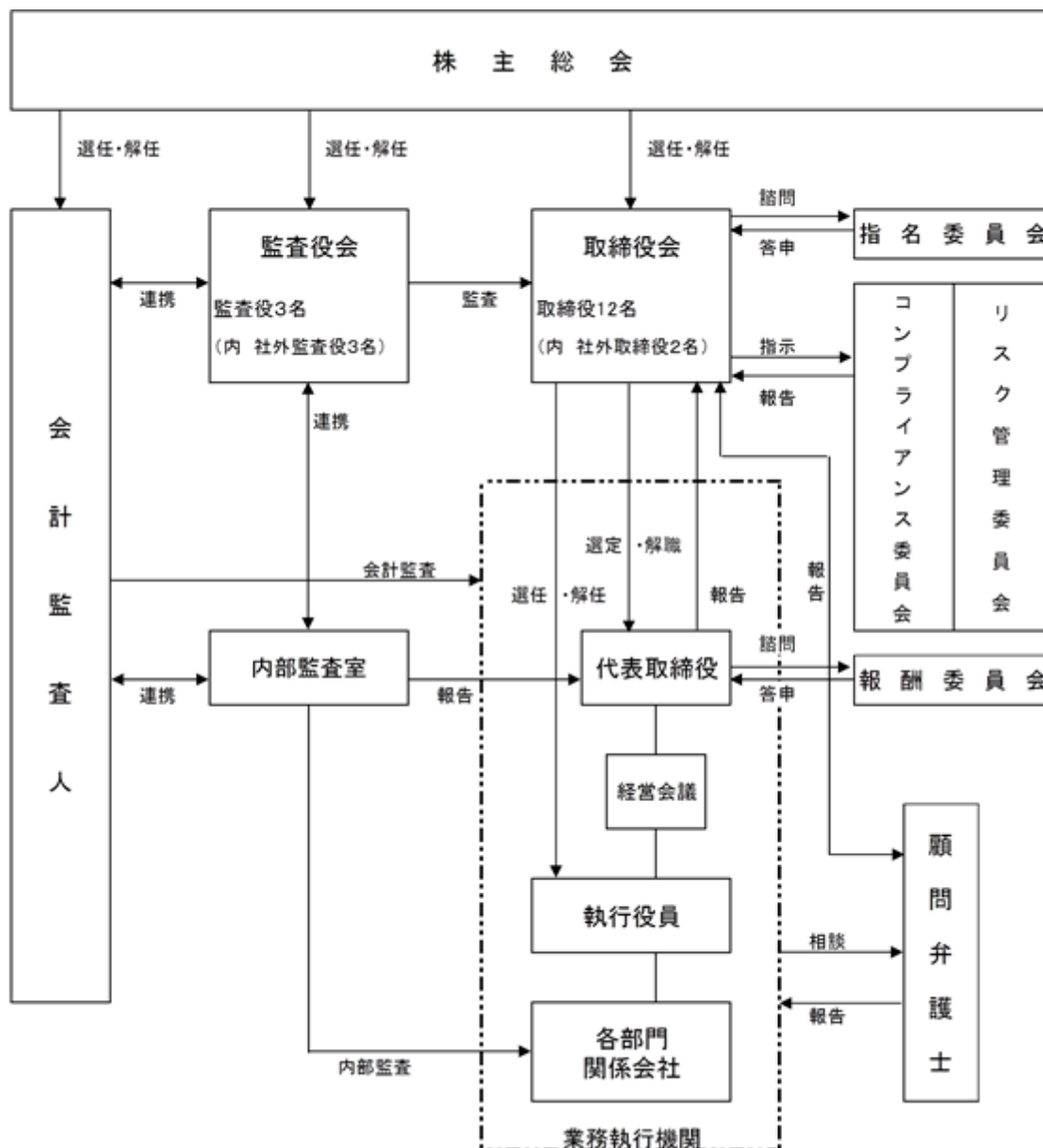
また、経営の意思決定機関及び業務執行の監督と業務執行機関を明確に分離するため、執行役員制度を導入しております。

当社の監査役会は、常勤監査役山條博通と監査役森 眞一及び平田真基の計3名で構成されており、全員を社外監査役とし、内部監査部門及び会計監査人と連携して適法且つ適正な経営が行われるよう監視する体制を採っております。

当社は、任意の諮問機関である指名委員会を設置しており、取締役西村元秀、社外取締役宗岡 徹及び近藤剛史、オブザーバーとして常勤監査役山條博通（社外監査役）の計4名で構成され、委員長は社外取締役宗岡 徹が務めております。同委員会では、株主総会に付議する取締役選任または解任議案の原案、取締役会に付議する代表取締役及び役付取締役の選定、解職、職務分担の原案、執行役員候補者の原案及び社長後継者計画の策定、監督等の事項について取締役会の諮問に応じて審議し、その内容を取締役会に答申しております。取締役会は同委員会の答申を最大限尊重の上、審議事項を決定しております。

また、当社は、任意の諮問機関である報酬委員会を設置しており、取締役西村元秀及び成田和人、社外取締役宗岡 徹及び近藤剛史、オブザーバーとして常勤監査役山條博通（社外監査役）の計5名で構成され、委員長は社外取締役宗岡 徹が務めております。同委員会では、株主総会に付議する取締役報酬議案の原案、取締役の個人別報酬額の原案及び取締役報酬方針の原案等の事項について代表取締役の諮問に応じて審議し、その内容を代表取締役に答申しております。代表取締役は同委員会の答申を最大限尊重の上、審議事項を決定し、取締役会に報告しております。

当社のコーポレート・ガバナンス体制は、次の図のとおりであります。



企業統治に関するその他の事項

内部統制システムの整備の状況

(イ) 当社及び子会社の取締役・使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制

当社及び子会社は、法令・定款及び社会規範を遵守した行動をとるため「泉州電業グループ行動規範」を制定する。

当社及び子会社は、「コンプライアンス規程」に従いコンプライアンスの徹底を図り、「コンプライアンス委員会」においてコンプライアンス推進体制を構築する。

当社及び子会社のコンプライアンスの状況は、内部監査室が「コンプライアンス委員会」と連携のうえ監査し、その結果を定期的に取り締役会及び監査役会に報告する。

法令上疑義のある行為等について使用人が直接情報提供を行う手段として、「企業倫理ヘルプライン規程」に基づきホットライン（内部通報制度）を設置・運営する。

社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力及び団体とは一切関係を持たず、反社会的勢力及び団体に対しては毅然とした態度で臨む。

(ロ) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務執行に係る情報は、「文書管理規程」に従い文書または電磁的媒体（以下、文書等という。）に記録し、保存するとともに、取締役及び監査役は、「文書管理規程」に基づき、常時これらの文書等を閲覧できるものとする。

- (ハ) 当社及び子会社の損失の危険の管理に関する規程その他の体制  
当社及び子会社は、「リスク管理規程」・「危機管理規程」に基づき、当社及び子会社のリスク管理を明確化し、「リスク管理委員会」においてリスク管理推進体制を構築する。  
当社及び子会社のリスク管理の状況は、内部監査室が監査し、その結果を定期的に取り締役会及び監査役会に報告する。
- (ニ) 当社及び子会社の取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制  
当社の取締役会は、毎月1回開催するほか、必要に応じて臨時取締役会を開催し、法令で定められた事項や経営に関する重要事項の決定及び業務執行状況を監督している。  
会社業務執行に関する重要事項の審議・決定及び取締役会の事前審査機関として、役付取締役全員で構成される経営会議を毎月1回開催している。  
経営の意思決定機関及び業務執行の監督と業務執行機関を明確に分離するため、執行役員制度を導入している。  
当社及び子会社は、将来の事業環境を踏まえた中期経営計画を策定し、事業年度毎の予算を策定して、その目標達成に向けた具体的計画を立案・実行する。
- (ホ) 財務報告の適正性を確保するための体制  
金融商品取引法に基づき、財務報告の適正性を確保するため、当社及び子会社における財務報告に係る内部統制の基本方針を制定し、同方針に従って内部統制に必要な体制を整備・運用し、維持する。
- (ヘ) 当社及び子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制  
当社は「関係会社管理規程」に基づき、子会社に定期的な経営情報の報告を求め、効率的な経営に必要な支援・指導を通して、当社及び子会社全体の経営効率の向上を図る。  
当社取締役は子会社取締役を兼務することで、当社及び子会社の内部統制の確立に努める。  
当社監査役及び内部監査室は、当社及び子会社の内部監査を実施し、当社及び子会社の業務の適正を確保する体制を構築する。
- (ト) 監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項ならびにその使用人の取締役からの独立性及び当該使用人に対する指示の実効性の確保に関する事項  
監査役会は、「監査役会規則」・「監査役監査規程」に従い、当該使用人の取締役からの独立性に関する体制を整備するように取締役に対して要請する。  
当該使用人は監査役の指揮命令のもと職務を遂行する。  
当該使用人の人事異動・人事評価については、監査役の同意を必要とする。
- (チ) 当社及び子会社の取締役及び使用人が監査役に報告をするための体制その他の監査役への報告に関する体制ならびに当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制  
監査役は、取締役会及び経営会議その他の重要な会議へ出席し重要な報告を受ける。  
当社及び子会社の取締役または使用人は、監査役に対して、法令で定められた事項に加え、当社及び子会社の業務または業績に重大な影響を及ぼす事項等は、速やかに監査役に報告する。  
当社は、監査役へ報告した当社及び子会社の取締役及び使用人に対し、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止する。
- (リ) 監査役がその職務の執行について生ずる費用の前払または債務の処理に係る方針に関する事項  
当社は、監査役がその職務の執行について生じる費用の前払いまたは償還の請求をしたときは、当該監査役の職務の遂行に必要でないと認められた場合を除き、速やかに当該費用または債務を処理する。
- (ヌ) その他監査役が実効的に行われることを確保するための体制  
監査役は代表取締役との間で定期的な会合を持ち、情報交換や業務執行状況を報告・検討するなど代表取締役との相互認識を深めた体制を構築する。  
監査役会は、内部監査室及び会計監査人との情報交換、意見交換を行うなどの連携を密にして、監査の実効性と効率を高めた体制を構築する。

#### 取締役の定数

当社の取締役は12名以内とする旨定款に定めております。

#### 取締役の選任及び解任の決議要件

当社は、取締役の選任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨及び累積投票によらない旨定款に定めております。

また、解任決議について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。

#### 株主総会決議事項を取締役会で決議することができる事項

##### (イ) 自己株式の取得

当社は、経営環境の変化に対応した機動的な資本政策の遂行を可能とするため、会社法第165条第2項に基づき、取締役会の決議によって市場取引等により自己の株式を取得することができる旨定款に定めております。

##### (ロ) 中間配当

当社は、株主への機動的な利益還元を行うため、会社法第454条第5項の規定により、取締役会の決議によって、毎年4月30日を基準日として中間配当をすることができる旨定款に定めております。

#### 株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件について、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

#### 責任限定契約の内容の概要

当社と社外取締役及び社外監査役は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、社外取締役及び社外監査役は法令が定める額としております。なお、当該責任限定が認められるのは、当該社外取締役または社外監査役が責任の原因となった職務の遂行について善意でかつ重大な過失がないときに限られます。



(2)【役員の状況】

役員一覧

男性14名 女性1名 (役員のうち女性の比率6.7%)

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
代表取締役社長	西村 元秀	1955年7月6日生	1978年4月 岡三証券株式会社入社 1995年6月 岡三証券株式会社国際本部長付参事 1995年8月 当社顧問 1996年1月 当社取締役就任 営業副本部長兼国際部長 1996年1月 株式会社エステック代表取締役社長就任 1997年1月 当社常務取締役就任 管理副本部長兼管理部長 1998年1月 当社専務取締役就任 営業本部長兼営業管理部長 1999年3月 当社専務取締役営業本部長兼経営企画室長兼営業管理部長 2000年1月 当社代表取締役社長就任 2001年11月 SENSU ELECTRIC (THAILAND) CO.,LTD.代表取締役就任 2004年1月 上海泉秀国際貿易有限公司董事長就任 2007年5月 株式会社エステック代表取締役会長就任 2009年4月 当社代表取締役社長営業本部長 2010年11月 三光商事株式会社代表取締役会長就任 2012年1月 当社代表取締役社長営業本部長兼国際本部長 2013年1月 当社代表取締役社長国際本部長 2015年3月 アシ電機株式会社代表取締役会長就任 2015年6月 太洋通信工業株式会社代表取締役会長就任 2016年1月 株式会社エステック代表取締役会長兼代表取締役社長就任 2016年6月 当社代表取締役社長(現任) 2018年5月 関西電線販売業協同組合理事長(現任) 2018年6月 倉敷紡績株式会社取締役(監査等委員)(現任)	(注)3	783

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役副社長 執行役員営業本部長	西村 和彦	1944年5月18日生	1968年4月 住金鋼材工業株式会社(現、日鉄鋼板株式会社)入社 1979年4月 当社入社 1988年1月 当社取締役就任 経理部長 1991年11月 当社取締役大阪支店第一営業部長 1994年1月 当社常務取締役就任 大阪支店第一営業部長 1996年1月 当社常務取締役営業副本部長兼大阪支店第一営業部長 1998年1月 当社専務取締役就任 営業副本部長兼大阪支店第一営業部長 2000年1月 当社取締役副社長就任 営業本部長 2003年2月 SENSU ELECTRIC INTERNATIONAL CO.,LTD.代表取締役就任 2007年2月 当社取締役副社長兼執行役員営業本部長 2009年4月 当社取締役副社長兼執行役員 2012年1月 当社取締役副社長兼執行役員営業副本部長兼国際副本部長 2012年1月 SENSU ELECTRIC (THAILAND) CO.,LTD.代表取締役会長就任 2013年1月 当社取締役副社長兼執行役員営業本部長兼国際副本部長 2016年11月 当社取締役副社長兼執行役員営業本部長(現任)	(注)3	348

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
取締役副社長 執行役員国際本部長	田原 隆男	1951年1月5日生	1969年3月 当社入社 2000年11月 当社名古屋支店長 2002年1月 当社取締役就任 名古屋支店長 2005年1月 当社常務取締役就任 名古屋支店長 2005年5月 当社常務取締役営業副本部長兼名古屋支店長 2007年2月 当社常務取締役兼執行役員営業副本部長兼名古屋支店長 2008年1月 当社専務取締役就任 執行役員営業副本部長兼名古屋支店長 2012年1月 当社専務取締役兼執行役員営業副本部長兼国際副本部長兼名古屋支店長 2012年1月 SENSU ELECTRIC INTERNATIONAL CO.,LTD.代表取締役会長就任(現任) 2014年10月 SENSU ELECTRIC PHILIPPINES CORPORATION代表取締役社長就任 2016年1月 当社取締役副社長就任 執行役員営業副本部長兼国際副本部長兼名古屋支店長 2016年6月 当社取締役副社長兼執行役員国際本部長兼営業副本部長 2016年11月 当社取締役副社長兼執行役員国際本部長 2017年4月 当社取締役副社長兼執行役員国際本部長兼国際本部国際部長 2017年11月 SENSU ELECTRIC PHILIPPINES CORPORATION代表取締役会長就任(現任) 2019年4月 当社取締役副社長兼執行役員国際本部長(現任) 2019年10月 SENSU ELECTRIC VIETNAM CO.,LTD.代表取締役会長就任(現任)	(注)3	10

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
専務取締役 執行役員営業副本部長兼東京支店長	吉田 篤弘	1955年9月15日生	1974年3月 当社入社 2006年7月 当社埼玉営業所長 2010年10月 当社仙台支店長 2012年1月 当社取締役就任 執行役員営業副本部長兼仙台支店長 2016年1月 当社常務取締役就任 執行役員営業副本部長兼東京支店長 2016年1月 いすゞ電業株式会社代表取締役社長就任(現任) 2016年11月 当社常務取締役兼執行役員東京支店長 2018年1月 当社常務取締役兼執行役員営業副本部長兼東京支店長 2020年1月 当社専務取締役就任 執行役員営業副本部長兼東京支店長(現任)	(注)3	4
専務取締役 執行役員管理副本部長兼総務部長	成田 和人	1960年1月18日生	1982年3月 当社入社 2009年1月 当社総務部長 2012年1月 当社執行役員総務部長 2016年1月 当社取締役就任 執行役員管理副本部長兼総務部長 2018年1月 当社常務取締役就任 執行役員管理副本部長兼総務部長 2020年1月 当社専務取締役就任 執行役員管理副本部長兼総務部長(現任)	(注)3	6
常務取締役 執行役員	富永 光明	1949年5月31日生	1973年4月 当社入社 2000年1月 当社本店第一営業部長 2005年11月 当社営業副本部長兼本店直需部長 2007年2月 当社執行役員営業副本部長兼本店直需部長 2007年5月 上海泉秀国際貿易有限公司董事長 2009年1月 当社取締役就任 執行役員営業副本部長兼本店直需部長 2012年1月 当社取締役兼執行役員営業副本部長兼国際副本部長兼本店直需部長 2013年5月 エヌピーエス株式会社代表取締役会長就任 2014年5月 当社取締役兼執行役員営業副本部長兼国際副本部長兼国際部長 2014年11月 エヌピーエス株式会社代表取締役社長就任(現任) 2014年11月 当社取締役兼執行役員営業副本部長兼国際副本部長 2016年1月 当社常務取締役就任 執行役員営業副本部長兼国際副本部長 2016年1月 上海泉秀国際貿易有限公司董事長(現任) 2016年11月 当社常務取締役兼執行役員(現任)	(注)3	9

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常務取締役 執行役員福岡支店長	深田 喜代人	1955年9月26日生	1974年3月 当社入社 2004年4月 上海泉秀国際貿易有限公司總經理 2010年11月 当社福岡支店長 2012年1月 当社執行役員福岡支店長 2016年1月 当社取締役就任 執行役員営業副 本部長兼福岡支店長 2016年11月 当社取締役兼執行役員福岡支店長 2020年1月 当社常務取締役就任 執行役員福 岡支店長（現任）	(注) 3	7
常務取締役 執行役員札幌支店長	宇正 嗣曜	1969年5月1日生	1988年3月 当社入社 2010年6月 当社札幌支店長 2014年1月 当社執行役員札幌支店長 2016年1月 当社取締役就任 執行役員営業副 本部長兼札幌支店長 2016年11月 当社取締役兼執行役員札幌支店長 2020年1月 当社常務取締役就任 執行役員札 幌支店長（現任）	(注) 3	1
取締役 執行役員管理副本部長兼経理部長 兼輸出管理室長	島岡 修子	1957年3月30日生	1979年3月 当社入社 2013年6月 当社経理部長 2016年1月 当社執行役員経理部長 2020年1月 当社取締役就任 執行役員管理副 本部長兼経理部長兼輸出管理室長 （現任）	(注) 3	6
取締役 執行役員大阪本店長兼第三営業部長	花山 昌典	1957年3月6日生	1975年3月 当社入社 2009年1月 当社本店第三営業部長 2015年5月 当社広島支店長 2016年1月 当社執行役員広島支店長 2018年11月 当社執行役員大阪本店副本部長兼 第三営業部長 2020年1月 当社取締役就任 執行役員大阪本 店長兼第三営業部長（現任）	(注) 3	-
取締役	宗岡 徹	1957年6月27日生	1984年9月 等松・青木監査法人（現、有限責 任監査法人トーマツ）大阪事務所 入所 1988年2月 公認会計士登録 1990年9月 株式会社日本興業銀行（現、株式 会社みずほ銀行）入行 2003年4月 ソニー株式会社入社 年金企画部 担当部長 2005年4月 関西大学研究員 2006年4月 関西大学大学院会計研究科教授 （現任） 2011年3月 株式会社ディー・ディー・エス監 査役（現任） 2016年1月 当社取締役就任（現任） 2019年1月 共英製鋼株式会社仮監査役 2019年6月 同社監査役（現任）	(注) 3	-
取締役	近藤 剛史	1963年11月19日生	1991年4月 最高裁判所司法研修所入所 1993年4月 弁護士登録 1993年4月 近藤千秋・剛史法律事務所入所 2001年4月 近藤総合法律事務所所長（現任） 2003年4月 弁理士登録 2010年4月 関西大学大学院法務研究科特別任 用教授（現任） 2016年6月 日本新薬株式会社監査役（現任） 2018年1月 当社取締役就任（現任）	(注) 3	-

役職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (千株)
常勤監査役	山條 博通	1956年5月2日生	1979年4月 株式会社大和銀行（現、株式会社りそな銀行）入行 2004年4月 りそな信託銀行株式会社（現、株式会社りそな銀行）執行役員 2004年6月 日本インベスター・ソリューション・アンド・テクノロジー株式会社取締役 2006年6月 りそな信託銀行株式会社（現、株式会社りそな銀行）取締役兼執行役員 2007年6月 同行取締役兼常務執行役員 2009年4月 株式会社りそな銀行常務執行役員 2011年5月 りそな決済サービス株式会社取締役副社長 2012年6月 株式会社近畿大阪銀行（現、株式会社関西みらい銀行）常勤監査役 2013年6月 ディアンドアイ情報システム株式会社取締役副社長 2019年1月 同社顧問 2019年1月 当社常勤監査役就任（現任）	(注) 4	-
監査役	森 眞一	1948年10月17日生	1972年4月 株式会社富士銀行（現、株式会社みずほ銀行）入行 1992年1月 同行新浦安支店長 2002年6月 みずほインベスターズ証券株式会社（現、みずほ証券株式会社）執行役員 2005年6月 株式会社キーエンス取締役経営情報部長 2010年1月 当社監査役就任（現任） 2010年6月 吉田印刷株式会社監査役 2014年7月 株式会社鳥羽洋行監査役（現任）	(注) 4	0
監査役	平田 真基	1954年10月31日生	1978年4月 株式会社大和銀行（現、株式会社りそな銀行）入行 1995年7月 同行茨木西支店長 2002年3月 同行本店営業部第四部長 2003年12月 株式会社りそな銀行大阪営業第三部長 2004年4月 同行大阪西地域 地域CEO兼大阪西区支店長 2007年6月 りそな信託銀行株式会社（現、株式会社りそな銀行）執行役員 2009年4月 鉢伏開発観光株式会社代表取締役社長（現任） 2009年10月 近畿管理株式会社取締役（現任） 2011年11月 株式会社ユースランド取締役（現任） 2014年6月 ハチブセ・リアル・エステート代表取締役社長（現任） 2019年1月 当社監査役就任（現任）	(注) 4	-
計					1,177

- (注) 1. 取締役宗岡 徹氏及び 同 近藤剛史氏は、社外取締役であります。  
 2. 常勤監査役山條博通氏、監査役森 眞一氏及び 同 平田真基氏は、社外監査役であります。  
 3. 2020年1月30日開催の定時株主総会の終結の時から2年間  
 4. 2019年1月30日開催の定時株主総会の終結の時から4年間

5. 当社は、法令に定める監査役の員数を欠くことになる場合に備え、会社法第329条第3項に定める補欠監査役1名を選任しております。

補欠監査役の略歴は次のとおりであります。

氏名	生年月日	略歴	所有株式数 (千株)
加藤 通夫	1950年4月3日生	1973年4月 当社入社 2001年2月 当社内部監査室長 2007年1月 当社取締役総務部長 2009年1月 当社取締役兼執行役員経理部長 2012年5月 当社取締役兼執行役員管理副本部長兼経理部長兼管理部長 2013年5月 当社取締役兼執行役員管理副本部長兼管理部長 2015年6月 太洋通信工業株式会社代表取締役社長 2016年1月 当社顧問 2018年1月 太洋通信工業株式会社取締役管理部長 2018年5月 同社顧問管理部長 2018年10月 泉州産業株式会社代表取締役(現任)	-

#### 社外役員の状況

当社の社外取締役は2名、社外監査役は3名であります。

当社は、社外取締役又は社外監査役を選任するための独立性に関する基準として、会社法に定める要件及び東京証券取引所が定める独立性に関する判断基準に基づくとともに、経歴や当社との関係を踏まえて、当社経営陣から独立した立場で社外役員としての職務を遂行できる十分な独立性が確保できることを個別に判断しております。

社外取締役の宗岡 徹氏は、公認会計士及び大学教授としての豊富な経験や幅広い見識を活かし、経営に対する重要な意思決定及び業務執行の監督に寄与して頂けるものと判断しております。また、同氏個人と当社との間に特別の利害関係はないため、当社は同氏を一般株主との利益相反を生じる恐れのない独立役員として選任しております。

社外取締役の近藤剛史氏は、弁護士として企業法務に精通し、企業経営を統治する十分な見識を活かし、経営に対する重要な意思決定及び業務執行の監督に寄与して頂けるものと判断しております。また、同氏個人と当社との間に特別の利害関係はないため、当社は同氏を一般株主との利益相反を生じる恐れのない独立役員として選任しております。

社外監査役の3氏は、これまで培ってきた金融と財務に関する豊富な経験と幅広い見識を活かし、経営全般の監視と有効な助言を頂けるものと判断しております。当社は社外監査役全員を独立役員として選任しております。社外監査役の森 眞一氏は当社の株式を100株所有しておりますが、それ以外に3氏と当社との間に人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係はなく、経営監視機能の客観性及び中立性を保持しております。

社外監査役の山條博通氏においては、株式会社りそな銀行の出身であり、当社は同行と預金取引を行っておりますが、同行は複数ある取引銀行の一行であり、社外監査役としての職務を遂行できる十分な独立性の確保を阻害する利害関係はないと判断しております。

社外監査役の森 眞一氏においては、株式会社キーエンスの出身であり、当社は同社と取引関係にあります。その取引金額は僅少(売上高及び仕入高ともに0.03%未満)であり、社外監査役としての職務を遂行できる十分な独立性の確保を阻害する利害関係はないと判断しております。また、同氏の兼任先である株式会社鳥羽洋行と当社の間には取引関係がありますが、取引金額は僅少(売上高の0.01%未満)であり、社外監査役としての職務を遂行できる十分な独立性の確保を阻害する利害関係はないと判断しております。

社外監査役の平田真基氏においては、株式会社りそな銀行の出身であり、当社は同行と預金取引を行っておりますが、同行は複数ある取引銀行の一行であり、社外監査役としての職務を遂行できる十分な独立性の確保を阻害する利害関係はないと判断しております。

社外取締役又は社外監査役による監督又は監査と内部監査、監査役監査及び会計監査との相互連携並びに内部統制部門との関係

社外取締役及び社外監査役は年2回、代表取締役から詳細な経営方針の説明を受けており、その他の取締役からも随時担当業務の状況について説明を受け、意見交換をしております。また、内部監査部門より内部監査の計画及び実施状況につき報告を受け、同部門との連携を図っております。

社外監査役は、会計監査やコンプライアンスにつき、常勤監査役と随時情報共有と意見交換を行っており、会計監査人との連携も図っております。

内部監査部門は、年度監査計画の策定にあたって監査役との協議を行うほか、個別の内部監査状況に関し監査役へ報告や連絡を行うことで監査役監査との緊密な連携を図っています。その他、会計監査人との間で必要に応じて意見交換の場を設け、会計監査人との緊密な連携を図っています。

監査役は、会計監査人から監査計画の概要、監査重点項目、監査結果等について報告を聴取するほか、定期的な意見交換の場を設けることなどにより、会計監査人と緊密な連携を図っています。

会計監査人は、内部監査部門、監査役との意見交換等を通じた緊密な連携を図るほか、各部門に対して必要な資料の開示や提出を求めることにより、実効性のある監査を行っています。

### (3)【監査の状況】

#### 監査役監査の状況

当社の監査役監査は、社外監査役3名のもと、監査役会規則及び監査役監査規程に基づき取締役会及び経営会議その他の重要な会議への出席並びに業務監査等により、取締役の業務執行を監視して、経営の透明性及び客観性の確保に努めております。また、代表取締役との定期的な会合を持ち、情報交換や業務執行状況を報告・検討するなど代表取締役との相互認識を深めるとともに、内部監査室及び会計監査人との情報交換、意見交換等を行うなどの連携を密にして、監査の実効性と効率性を高めております。

#### 内部監査の状況

当社の内部監査組織は、社長直轄の組織である内部監査室(2名)を常設し、内部監査規程に基づき業務遂行の有効性及び効率性の観点から会計監査、業務監査、内部統制監査等の内部監査を実施しております。また、監査役及び会計監査人との意見交換等を行うなどの連携を密にして、監査の実効性と効率性を高めております。

#### 会計監査の状況

##### (イ) 監査法人の名称

太陽有限責任監査法人

##### (ロ) 業務を執行した公認会計士

指定有限責任社員 業務執行社員 高木 勇、土居一彦

##### (ハ) 監査業務に係る補助者の構成

当社の会計監査業務に係る補助者は、公認会計士16名、会計士試験合格者等7名、その他12名であり、会計監査につきましても当社は太陽有限責任監査法人と監査契約を締結し、会社法監査及び金融商品取引法監査を受けております。太陽有限責任監査法人は、独立の第三者としての立場から財務諸表監査を実施し、当社は監査結果の報告を受けております。

##### (ニ) 監査法人の選定方針と理由

監査法人の選定にあたり、当社の監査を適正に実施するための監査品質、品質管理及び総合能力等を備えていることを必須の選定条件としております。

なお、会計監査人が会社法340条第1項各号に定める項目に該当すると認められた場合、監査役全員の同意に基づき、監査役会が会計監査人を解任いたします。

また、上記の選定条件に基づき、会計監査人が職務を適切に遂行することが困難と認められる場合には、監査役会が会計監査人の解任及び不再任に関する株主総会の議案の内容を決定いたします。

##### (ホ) 監査役及び監査役会による監査法人の評価

監査役及び監査役会は、監査法人との面談、監査実施状況・監査内容の確認、監査法人と連携する内部監査室及び関係部門からのヒアリング等を通じて、評価を実施しており、監査法人の監査が、監査計画に基づき適切に実施され、適正な監査品質を有していることを確認しております。



監査報酬の内容等

(イ) 監査公認会計士等に対する報酬の内容

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)	監査証明業務に基づく報酬(百万円)	非監査業務に基づく報酬(百万円)
提出会社	27	0	27	0
連結子会社	-	-	-	-
計	27	0	27	0

(ロ) その他重要な報酬の内容

当社の一部の海外連結子会社は、当社の監査公認会計士等と同一のネットワークに属しているグラントソントンインターナショナルのメンバーファームに対して、監査証明業務及び非監査業務に基づく報酬を支払っております。

(ハ) 監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容

(前連結会計年度)

当社は、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務(非監査業務)である合意された手続業務を委託し、対価を支払っております。

(当連結会計年度)

当社は、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務(非監査業務)である合意された手続業務を委託し、対価を支払っております。

(ニ) 監査報酬の決定方針

当社の監査公認会計士等に対する監査報酬の決定方針は、特に定めておりませんが、監査計画、監査日数、監査内容等を勘案し、監査公認会計士等と協議を行い、監査役会の同意を得た上で、監査報酬を決定しております。

(4)【役員の報酬等】

役員の報酬等の額又はその算定方法の決定に関する方針に係る事項

(イ)基本方針

当社は、役員の報酬等に関して、優れた人材を任命し、企業の持続的な成長と企業価値の向上を図るために期待される役割を十分に発揮できる報酬ならびにその成果に対する報酬を支払うことを基本方針としております。

(ロ)役員の報酬等の額

当社は、各取締役の個別報酬額については、2015年1月29日開催の第65期定時株主総会において年額350百万円以内（うち社外取締役分20百万円以内）と決議された報酬限度額を上限として、各取締役の職位及び職務内容などに応じて設定された基本報酬に加え、業績等の達成度合いに応じて賞与を支給する報酬体系を採っております。監査役の基本報酬については、2007年1月30日開催の第57期定時株主総会において年額30百万円以内と決議された報酬限度額を上限として、監査役の協議により、報酬額を決定しております。

また、取締役（社外取締役を除く。）に対して、2019年1月30日開催の第69期定時株主総会において年額100百万円以内と決議された報酬限度額を上限として、当社の企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを与えるとともに、株主の皆様との一層の価値共有を進めることを目的として、譲渡制限付株式の付与のための報酬を支給することを決議いただいております。

(ハ)役員の報酬等の種類

当社は、取締役（社外取締役除く）に対しては、金銭報酬として毎月の月額固定報酬（基本報酬）、年1回の業績連動報酬（賞与）及び株式報酬として年1回の譲渡制限付株式の付与のための報酬を支払うこととしております。

社外取締役及び監査役については、月額固定報酬（基本報酬）のみとなっております。

(ニ)役員の報酬等の決定方法及び決定権者

取締役の月額固定報酬（基本報酬）については、役位、職務内容、能力、経験、従業員とのバランス等総合的に勘案し、報酬委員会にて審議の上、代表取締役社長が決定し、取締役会に報告しております。

取締役の業績連動報酬（賞与）については、業績、貢献度等を総合的に勘案し、報酬委員会にて審議の上、代表取締役社長が決定し、取締役会に報告しております。

取締役の株式報酬については、役位、基本報酬等に基づき、取締役会にて決定しております。

監査役の月額固定報酬（基本報酬）については、監査役の協議により決定しております。

役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額 (百万円)	報酬等の種類別の総額(百万円)				対象となる役員の員数(名)
		固定報酬	業績連動報酬	譲渡制限付株式報酬	退職慰労金	
取締役(社外取締役を除く。)	294	172	78	35	8	10
監査役(社外監査役を除く。)	-	-	-	-	-	-
社外役員	28	24	-	-	3	7

(注) 1. 上記には2019年1月30日開催の第69期定時株主総会終結の時をもって退任した監査役2名(うち社外監査役2名)を含んでおります。

2. 上記報酬等の額には、当事業年度における役員退職慰労引当金の繰入額8百万円(取締役12名に対し8百万円(うち社外取締役2名に対し0百万円)、監査役3名に対し0百万円(うち社外監査役3名に対し0百万円))を含んでおり、また、譲渡制限付株式報酬の費用計上額35百万円(取締役10名(社外取締役を除く))を含めております。

なお、役員退職慰労引当金の繰入額は、2019年1月30日開催の第69期定時株主総会において役員退職慰労金制度廃止が決議となるまでの期間における計上額であります。

3. 上記には2019年1月30日開催の第69期定時株主総会の決議に基づき、同総会終結の時をもって退任した監査役2名に対する退職慰労金2百万円(うち社外監査役2名に対し2百万円)を含んでおります。

提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載していません。

(5)【株式の保有状況】

投資株式の区分の基準及び考え方

当社は、保有目的が純投資目的である投資株式と純投資目的以外の目的である投資株式の区分について、主に株式の価値の変動によって利益を得ることを目的として保有する株式を純投資目的である投資株式とし、それ以外の目的の株式を純投資目的以外の目的である投資株式としております。

保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

(イ) 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容

当社は、事業戦略、取引先との関係等を総合的に勘案し、当社の持続的な成長と中長期的な企業価値の向上に寄与すると判断した場合には、当該取引先の株式を保有する方針としておりますが、保有の合理性が認められない株式については縮減していく方針としております。同方針に基づき、取締役会は保有継続の合理性及び取引先との関係維持・強化の観点など総合的な検証を年1回実施しております。

(ロ) 銘柄数及び貸借対照表計上額

	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	4	17
非上場株式以外の株式	18	1,073

(当事業年度において株式数が増加した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の増加に係る取得 価額の合計額(百万円)	株式数の増加の理由
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	3	5	株式累積投資による増加

(当事業年度において株式数が減少した銘柄)

	銘柄数 (銘柄)	株式数の減少に係る売却 価額の合計額(百万円)
非上場株式	1	0
非上場株式以外の株式	-	-

(八) 特定投資株式の銘柄ごとの株式数、貸借対照表計上額等に関する情報

特定投資株式

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
株式会社進和	82,628.812	81,312.382	企業間取引の維持・強化のため 株式累積投資による増加	有
	203	180		
明治電機工業株式会 社	120,000	120,000	企業間取引の維持・強化のため	有
	179	248		
昭和電線ホールディ ングス株式会社	165,000	165,000	企業間取引の維持・強化のため	有
	156	115		
オーナンバ株式会社	353,000	353,000	企業間取引の維持・強化のため	有
	135	142		
明星工業株式会社	94,000	94,000	企業間取引の維持・強化のため	有
	81	79		
日本ピラー工業株式 会社	55,000	55,000	企業間取引の維持・強化のため	有
	80	83		
株式会社四電工	16,000	16,000	企業間取引の維持・強化のため	無
	44	41		
J M A C S 株式会社	97,900	97,900	企業間取引の維持・強化のため	有
	38	44		
スズデン株式会社	26,509.990	25,649.007	企業間取引の維持・強化のため 株式累積投資による増加	無
	36	33		
東洋電機株式会社	41,214.010	39,453.888	企業間取引の維持・強化のため 株式累積投資による増加	無
	34	36		
株式会社三ツ星	18,640	18,640	企業間取引の維持・強化のため	有
	26	32		
田中商事株式会社	29,700	29,700	企業間取引の維持・強化のため	無
	20	19		
藤井産業株式会社	10,000	10,000	企業間取引の維持・強化のため	無
	12	14		
日本国土開発株式会 社	17,000	-	企業間取引の維持・強化のため	無
	10	-		
株式会社中電工	3,399	3,399	企業間取引の維持・強化のため	無
	8	8		

銘柄	当事業年度	前事業年度	保有目的、定量的な保有効果 及び株式数が増加した理由	当社の株式の 保有の有無
	株式数(株)	株式数(株)		
	貸借対照表計上額 (百万円)	貸借対照表計上額 (百万円)		
株式会社岡三証券グループ	6,000	6,000	企業間取引の維持・強化のため	無
	2	3		
愛光電気株式会社	1,000	1,000	企業間取引の維持・強化のため	無
	1	3		
日立金属株式会社	1,000	1,000	企業間取引の維持・強化のため	無
	1	1		

(注) 1. 特定投資株式における定量的な保有効果については記載が困難であります。保有の合理性は、「(5) 株式の保有状況 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式(イ) 保有方針及び保有の合理性を検証する方法並びに個別銘柄の保有の適否に関する取締役会等における検証の内容」に記載の方法により検証しております。

2. 日本国土開発株式会社は2019年3月5日、東証一部に上場しております。

保有目的が純投資目的である投資株式

区分	当事業年度		前事業年度	
	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)	銘柄数 (銘柄)	貸借対照表計上額の 合計額(百万円)
非上場株式	-	-	-	-
非上場株式以外の株式	1	9	6	50

区分	当事業年度		
	受取配当金の 合計額(百万円)	売却損益の 合計額(百万円)	評価損益の 合計額(百万円)
非上場株式	-	-	-
非上場株式以外の株式	1	11	0

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的から純投資目的以外の目的に変更したものの該当事項はありません。

当事業年度中に投資株式の保有目的を純投資目的以外の目的から純投資目的に変更したものの該当事項はありません。

## 第5【経理の状況】

### 1. 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

(1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和51年大蔵省令第28号）に基づいて作成しております。

(2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（昭和38年大蔵省令第59号。以下「財務諸表等規則」という。）に基づいて作成しております。

また、当社は、特例財務諸表提出会社に該当し、財務諸表等規則第127条の規定により財務諸表を作成しております。

### 2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度（2018年11月1日から2019年10月31日まで）の連結財務諸表及び事業年度（2018年11月1日から2019年10月31日まで）の財務諸表について、太陽有限責任監査法人により監査を受けております。

### 3. 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容を適切に把握し、会計基準等の変更等についての確に対応することができる体制を整備するため、公益財団法人財務会計基準機構へ加入し、研修等へ参加しております。

1【連結財務諸表等】

(1)【連結財務諸表】

【連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当連結会計年度 (2019年10月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	15,432	15,972
受取手形及び売掛金	19,124	18,070
電子記録債権	4,875	6,137
有価証券	48	-
商品	4,065	4,128
その他	258	226
貸倒引当金	61	22
流動資産合計	43,744	44,512
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	8,617	10,474
減価償却累計額	3,808	3,649
建物及び構築物(純額)	4,809	6,825
機械装置及び運搬具	1,098	1,347
減価償却累計額	818	847
機械装置及び運搬具(純額)	279	500
土地	2 8,623	2 10,550
リース資産	171	176
減価償却累計額	65	88
リース資産(純額)	106	87
建設仮勘定	3,465	0
その他	330	333
減価償却累計額	261	245
その他(純額)	69	88
有形固定資産合計	17,353	18,052
<b>無形固定資産</b>		
のれん	10	4
その他	211	170
無形固定資産合計	221	175
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	1,380	1,326
長期貸付金	255	46
繰延税金資産	818	882
その他	4,355	4,398
減価償却累計額	333	382
その他(純額)	4,021	4,016
貸倒引当金	484	421
投資その他の資産合計	5,992	5,849
固定資産合計	23,567	24,077
資産合計	67,311	68,589

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当連結会計年度 (2019年10月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	23,688	23,537
短期借入金	1,115	1,105
リース債務	46	45
未払費用	262	325
未払法人税等	814	736
賞与引当金	612	628
その他	642	671
流動負債合計	26,180	26,049
固定負債		
リース債務	98	63
繰延税金負債	98	98
役員退職慰労引当金	528	-
退職給付に係る負債	1,847	1,946
資産除去債務	6	6
預り保証金	171	155
その他	10	519
固定負債合計	2,762	2,790
負債合計	28,943	28,840
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,575	2,575
資本剰余金	3,372	3,386
利益剰余金	33,395	35,467
自己株式	1,482	2,270
株主資本合計	37,860	39,158
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	425	431
為替換算調整勘定	68	60
退職給付に係る調整累計額	90	42
その他の包括利益累計額合計	403	449
非支配株主持分	105	140
純資産合計	38,368	39,749
負債純資産合計	67,311	68,589



## 【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】

## 【連結損益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当連結会計年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
売上高	82,038	83,676
売上原価	1 69,206	1 70,453
売上総利益	12,831	13,222
販売費及び一般管理費		
運賃及び荷造費	1,233	1,265
貸倒引当金繰入額	9	48
給料及び賞与	3,382	3,484
福利厚生費	865	864
賞与引当金繰入額	608	621
役員退職慰労引当金繰入額	58	8
退職給付費用	275	282
旅費交通費及び通信費	314	318
減価償却費	358	477
のれん償却額	25	5
その他	1,830	1,962
販売費及び一般管理費合計	8,963	9,243
営業利益	3,868	3,979
営業外収益		
受取利息	13	8
受取配当金	45	40
受取家賃	112	121
仕入割引	47	49
為替差益	2	1
その他	110	119
営業外収益合計	332	341
営業外費用		
支払利息	0	0
減価償却費	47	55
支払保証料	7	6
投資有価証券償還損	-	13
その他	40	37
営業外費用合計	95	113
経常利益	4,105	4,206
特別利益		
固定資産売却益	2 28	2 8
受取保険金	91	-
特別利益合計	120	8
特別損失		
固定資産除却損	-	3 120
減損損失	4 488	4 74
投資有価証券売却損	13	-
特別損失合計	501	195
税金等調整前当期純利益	3,724	4,019
法人税、住民税及び事業税	1,370	1,354
法人税等調整額	37	77
法人税等合計	1,332	1,277
当期純利益	2,391	2,742
非支配株主に帰属する当期純利益	20	28
親会社株主に帰属する当期純利益	2,371	2,714

【連結包括利益計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当連結会計年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
当期純利益	2,391	2,742
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	137	6
為替換算調整勘定	31	0
退職給付に係る調整額	36	48
その他の包括利益合計	132	54
包括利益	2,259	2,796
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	2,238	2,760
非支配株主に係る包括利益	20	35

【連結株主資本等変動計算書】

前連結会計年度（自 2017年11月1日 至 2018年10月31日）

(単位：百万円)

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,575	3,372	31,527	1,008	36,466
当期変動額					
剰余金の配当			252		252
剰余金の配当（中間配当）			250		250
親会社株主に帰属する当期純利益			2,371		2,371
自己株式の取得				473	473
自己株式の処分					-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	-	1,867	473	1,393
当期末残高	2,575	3,372	33,395	1,482	37,860

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整 勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	562	99	126	535	84	37,086
当期変動額						
剰余金の配当						252
剰余金の配当（中間配当）						250
親会社株主に帰属する当期純利益						2,371
自己株式の取得						473
自己株式の処分						-
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	137	31	36	132	20	111
当期変動額合計	137	31	36	132	20	1,282
当期末残高	425	68	90	403	105	38,368

当連結会計年度（自 2018年11月 1日 至 2019年10月31日）

（単位：百万円）

	株主資本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当期首残高	2,575	3,372	33,395	1,482	37,860
当期変動額					
剰余金の配当			298		298
剰余金の配当（中間配当）			343		343
親会社株主に帰属する当期純利益			2,714		2,714
自己株式の取得				821	821
自己株式の処分		14		33	47
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）					
当期変動額合計	-	14	2,071	788	1,298
当期末残高	2,575	3,386	35,467	2,270	39,158

	その他の包括利益累計額				非支配株主持分	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整 勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利 益累計額合計		
当期首残高	425	68	90	403	105	38,368
当期変動額						
剰余金の配当						298
剰余金の配当（中間配当）						343
親会社株主に帰属する当期純利益						2,714
自己株式の取得						821
自己株式の処分						47
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	6	7	48	46	35	82
当期変動額合計	6	7	48	46	35	1,380
当期末残高	431	60	42	449	140	39,749

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当連結会計年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前当期純利益	3,724	4,019
減価償却費	415	543
のれん償却額	25	5
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	152	168
役員退職慰労引当金の増減額(は減少)	49	528
賞与引当金の増減額(は減少)	14	16
貸倒引当金の増減額(は減少)	6	101
受取利息及び受取配当金	59	49
支払利息	0	0
固定資産売却損益(は益)	28	8
固定資産除却損	5	120
投資有価証券償還損益(は益)	5	13
受取賃貸料	112	121
減損損失	488	74
売上債権の増減額(は増加)	1,343	144
商品の増減額(は増加)	229	61
仕入債務の増減額(は減少)	2,125	158
未払消費税等の増減額(は減少)	78	223
その他	322	718
小計	4,826	4,732
利息及び配当金の受取額	59	49
利息の支払額	0	0
法人税等の支払額	1,224	1,432
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,660	3,349
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の預入による支出	640	541
定期預金の払戻による収入	663	634
有価証券及び投資有価証券の取得による支出	311	119
有価証券及び投資有価証券の償還による収入	34	8
投資有価証券の売却による収入	390	188
有形固定資産の取得による支出	3,148	1,651
有形固定資産の売却による収入	101	75
貸付金の回収による収入	37	257
保険積立金の積立による支出	144	147
保険積立金の解約による収入	296	61
その他	71	35
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,648	1,199
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	5	10
自己株式の取得による支出	473	821
配当金の支払額	502	642
その他	51	51
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,032	1,525
現金及び現金同等物に係る換算差額	14	7
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	35	631
現金及び現金同等物の期首残高	14,833	14,798
現金及び現金同等物の期末残高	14,798	15,430

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1. 連結の範囲に関する事項

(1) 連結子会社の数 12社

連結子会社名は、「第1 企業の概況 4. 関係会社の状況」に記載しているため、省略していません。

なお、SENSHU ELECTRIC VIETNAM CO.,LTD.については、当連結会計年度において新たに設立したため、連結の範囲に含めております。

(2) 非連結子会社の名称等

該当事項はありません。

2. 持分法の適用に関する事項

該当事項はありません。

3. 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、SENSHU ELECTRIC (THAILAND) CO.,LTD.、SENSHU ELECTRIC INTERNATIONAL CO.,LTD.及びSENSHU ELECTRIC PHILIPPINES CORPORATIONの決算日は7月31日、上海泉秀国際貿易有限公司及び台湾泉秀有限公司の決算日は12月31日、SENSHU ELECTRIC VIETNAM CO.,LTD.の決算日は9月30日です。

連結財務諸表の作成にあたって、SENSHU ELECTRIC (THAILAND) CO.,LTD.、SENSHU ELECTRIC INTERNATIONAL CO.,LTD.、SENSHU ELECTRIC PHILIPPINES CORPORATION及びSENSHU ELECTRIC VIETNAM CO.,LTD.については、決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、連結決算日までの期間に発生した重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

上海泉秀国際貿易有限公司及び台湾泉秀有限公司については、連結決算日現在で実施した仮決算に基づく財務諸表を使用しております。

4. 会計方針に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

有価証券

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)を採用しております。

時価のないもの

移動平均法による原価法を採用しております。

たな卸資産

商品

主として移動平均法による原価法(貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定)を採用しております。

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

有形固定資産(リース資産を除く)

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物(建物附属設備を除く)並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 8～50年

機械装置及び運搬具 5～17年

無形固定資産(リース資産を除く)

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間(5年)に基づいております。

リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

投資その他の資産

その他（投資不動産）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物及び構築物 15～47年

(3) 重要な引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に備えるため、当連結会計年度に負担すべき支給見込額を基準として計上しております。

(4) 退職給付に係る会計処理の方法

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当連結会計年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各連結会計年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額をそれぞれ発生の翌連結会計年度から費用処理しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社等の資産及び負債は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定及び非支配株主持分に含めて計上しております。

(6) のれんの償却方法及び償却期間

のれんは20年以内の合理的な償却期間を設定し、定額法により償却しております。

(7) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び取得日から3ヶ月以内に期限の到来する定期預金からなっております。

(8) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

（未適用の会計基準等）

- ・「収益認識に関する会計基準」（企業会計基準第29号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会）
- ・「収益認識に関する会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第30号 平成30年3月30日 企業会計基準委員会）

(1) 概要

国際会計基準審議会（IASB）及び米国財務会計基準審議会（FASB）は、共同して収益認識に関する包括的な会計基準の開発を行い、2014年5月に「顧客との契約から生じる収益」（IASBにおいてはIFRS第15号、FASBにおいてはTopic606）を公表しており、IFRS第15号は2018年1月1日以後開始する事業年度から、Topic606は2017年12月15日より後に開始する事業年度から適用される状況を踏まえ、企業会計基準委員会において、収益認識に関する包括的な会計基準が開発され、適用指針と合わせて公表されたものです。

企業会計基準委員会の収益認識に関する会計基準の開発にあたっての基本的な方針として、IFRS第15号と整合性を図る便益の1つである財務諸表間の比較可能性の観点から、IFRS第15号の基本的な原則を取り入れることを出発点とし、会計基準を定めることとされ、また、これまで我が国で行われてきた実務等に配慮すべき項目がある場合には、比較可能性を損なわせない範囲で代替的な取扱いを追加することとされております。

(2) 適用予定日

2022年10月期の期首から適用します。

(3) 当該会計基準等の適用による影響

「収益認識に関する会計基準」等の適用による連結財務諸表に与える影響額については、現時点で評価中であります。

(表示方法の変更)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当連結会計年度の期首から適用し、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更するとともに、税効果会計関係注記を変更しております。

この結果、前連結会計年度の連結貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」が375百万円減少し、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」が367百万円増加しております。

なお、同一納税主体の繰延税金資産と繰延税金負債を相殺して表示しており、変更前と比べて総資産が7百万円減少しております。

(連結損益計算書)

前連結会計年度において独立掲記しておりました営業外費用の「投資有価証券売却損」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結損益計算書において、営業外費用に表示しておりました「投資有価証券売却損」11百万円、「その他」28百万円は、「その他」40百万円として組み替えております。

(連結キャッシュ・フロー計算書)

前連結会計年度において、営業活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めておりました「固定資産除却損」及び「投資有価証券償還損益(は益)」は金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。また、前連結会計年度において、独立掲記しておりました営業活動によるキャッシュ・フローの「投資有価証券売却損益(は益)」及び「保険解約損益(は益)」は金額的重要性が乏しくなったため、当連結会計年度においては「その他」に含めて表示しております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、営業活動によるキャッシュ・フローに表示しておりました「投資有価証券売却損益(は益)」24百万円、「保険解約損益(は益)」91百万円、「その他」256百万円は、「固定資産除却損」5百万円、「投資有価証券償還損益(は益)」5百万円、「その他」322百万円として組み替えております。

前連結会計年度において、投資活動によるキャッシュ・フローの「その他」に含めておりました「貸付金の回収による収入」は金額的重要性が増したため、当連結会計年度より独立掲記することとしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、前連結会計年度の連結キャッシュ・フロー計算書において、投資活動によるキャッシュ・フローの「その他」に表示しておりました108百万円は、「貸付金の回収による収入」37百万円、「その他」71百万円として組み替えております。

(追加情報)

(役員退職慰労金制度の廃止)

当社は、2019年1月30日開催の第69期定時株主総会において、役員退職慰労金制度の廃止に伴う打ち切り支給を決議しております。支給時期につきましては、各取締役及び監査役の退任時とする予定であります。

これに伴い、「役員退職慰労引当金」の全額を取崩し、打ち切り支給に伴う未払額511百万円を固定負債の「その他」に含めて表示しております。



(連結貸借対照表関係)

1. 当座貸越契約

当社及び連結子会社は、運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行6行と当座貸越契約を締結しております。当座貸越契約に係る借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当連結会計年度 (2019年10月31日)
当座貸越極度額の総額	4,411百万円	4,323百万円
借入実行残高	115	105
差引額	4,296	4,218

2. 圧縮記帳額

有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当連結会計年度 (2019年10月31日)
土地	76百万円	76百万円

(連結損益計算書関係)

1. 期末たな卸高は収益性の低下に伴う簿価切下げ後の金額であり、次のたな卸資産評価損(洗替え法による戻入額相殺後の額)が売上原価に含まれております。

	前連結会計年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当連結会計年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
	26百万円	10百万円

2. 固定資産売却益の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当連結会計年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
建物及び土地	26百万円	6百万円
その他	2	1

3. 固定資産除却損の内容は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当連結会計年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
建物及び構築物	- 百万円	39百万円
機械装置及び運搬具	-	0
建物等解体費用	-	80
その他	-	0

4. 減損損失

前連結会計年度(自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類	減損損失
さいたま市北区	事務所	土地	339百万円
香川県高松市	事務所	建物及び土地	149百万円

当社グループは、事業所用資産については事業所単位で、賃貸不動産及び遊休資産については、個別物件単位でグルーピングしております。

当連結会計年度において、事業所の移転により回収可能価額を著しく低下させる変化があったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(488百万円)として特別損失に計上しております。その内訳は、建物16百万円及び土地471百万円であります。

なお、当資産グループの回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、建物及び土地については不動産鑑定評価額により評価しております。

当連結会計年度(自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)

当連結会計年度において、当社グループは以下の資産グループについて減損損失を計上しております。

場所	用途	種類	減損損失
大阪府吹田市	賃貸資産	土地	53百万円
フィリピン ラグーナ	事業用資産	建物及び機械装置等	21百万円

当社グループは、事業用資産については事業所単位で、賃貸不動産及び遊休資産については、個別物件単位でグルーピングしております。

賃貸資産は賃貸駐車場であり、使用用途の変更により回収可能性を著しく低下させる変化があったため、帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(53百万円)として特別損失に計上しております。

事業用資産は収益性が低下しているため、回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失(21百万円)として特別損失に計上しております。

なお、賃貸資産の回収可能価額は、正味売却価額により測定しており、固定資産税評価額を基に評価しております。事業用資産の回収可能価額は、使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込めないため、帳簿価額の全額を減損損失として計上しております。

(連結包括利益計算書関係)

その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当連結会計年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
その他有価証券評価差額金：		
当期発生額	189百万円	27百万円
組替調整額	19	23
税効果調整前	170	4
税効果額	32	10
その他有価証券評価差額金	137	6
為替換算調整勘定：		
当期発生額	31	3
組替調整額	-	-
税効果調整前	31	3
税効果額	0	3
為替換算調整勘定	31	0
退職給付に係る調整額：		
当期発生額	1	20
組替調整額	50	48
税効果調整前	52	69
税効果額	15	21
退職給付に係る調整額	36	48
その他の包括利益合計	132	54

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度 期末株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	10,800	-	-	10,800
合計	10,800	-	-	10,800
自己株式				
普通株式(注)	694	150	-	844
合計	694	150	-	844

(注) 普通株式の自己株式の株式数の増加150千株は、取締役会決議に基づく自己株式の市場買付けによる増加150千株及び単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2018年1月25日 定時株主総会	普通株式	252	25	2017年10月31日	2018年1月26日
2018年6月4日 取締役会	普通株式	250	25	2018年4月30日	2018年7月3日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年1月30日 定時株主総会	普通株式	298	利益剰余金	30	2018年10月31日	2019年1月31日

当連結会計年度(自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数並びに自己株式の種類及び株式数に関する事項

	当連結会計年度 期首株式数 (千株)	当連結会計年度 増加株式数 (千株)	当連結会計年度 減少株式数 (千株)	当連結会計年度 期末株式数 (千株)
発行済株式				
普通株式	10,800	-	-	10,800
合計	10,800	-	-	10,800
自己株式				
普通株式(注)	844	300	17	1,127
合計	844	300	17	1,127

(注) 1. 普通株式の自己株式の株式数の増加300千株は、取締役会決議に基づく自己株式の市場買付けによる増加300千株及び単元未満株式の買取りによる増加0千株であります。

2. 普通株式の自己株式の株式数の減少17千株は、譲渡制限付株式報酬としての自己株式の処分による減少であります。

2. 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2019年1月30日 定時株主総会	普通株式	298	30	2018年10月31日	2019年1月31日
2019年6月4日 取締役会	普通株式	343	35	2019年4月30日	2019年7月2日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	配当の原資	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
2020年1月30日 定時株主総会	普通株式	338	利益剰余金	35	2019年10月31日	2020年1月31日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当連結会計年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
現金及び預金勘定	15,432百万円	15,972百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	633	541
現金及び現金同等物	14,798	15,430

(リース取引関係)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(金融商品関係)

1. 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、設備投資資金は設備投資計画に照らして、自己資金で賄っております。一時的な余資は安全性の高い金融資産で運用し、運転資金は自己資金または銀行借入により調達しております。デリバティブ取引は、利用しておりません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である受取手形及び売掛金、電子記録債権は、顧客の信用リスクに晒されております。また、海外で事業を行うにあたり生じる外貨建ての営業債権は、為替の変動リスクに晒されておりますが、為替リスクによる影響は僅少であります。

有価証券及び投資有価証券は、主に業務上の関係を有する企業の株式等であり、市場価格の変動リスク及び発行体の信用リスクに晒されております。

営業債務である支払手形及び買掛金は、そのほとんどが1年以内の支払期日であります。一部外貨建てのものについては、為替の変動リスクに晒されておりますが、為替リスクによる影響は僅少であります。

借入金は、主に営業取引に係る資金調達を目的としたものであり、借入金の返済日は最長で決算日後3ヶ月であります。ファイナンス・リース取引に係るリース債務の返済日は最長で決算日後5年であります。

(3) 金融商品に係るリスク管理体制

信用リスク（取引先の契約不履行等に係るリスク）の管理

当社は、債権管理規程に従い、営業債権について、管理部及び各事業部門における営業部門が主要な取引先の状況を定期的にモニタリングし、取引相手ごとに期日及び残高を管理するとともに、財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。連結子会社においても、当社の債権管理規程に準じて、同様の管理を行っております。

市場リスク（為替や金利等の変動リスク）の管理

当社は、外貨建ての営業債権債務について、為替の変動リスクに晒されておりますが、当社グループの全体に与える影響は僅少であります。

有価証券及び投資有価証券については、定期的に時価や発行体（取引先企業）の財務状況等を把握し、また、市況や取引先企業との関係を勘案して保有状況を継続的に見直しております。連結子会社においても、同様の管理を行っております。

資金調達に係る流動性リスク（支払期日に支払いを実行できなくなるリスク）の管理

当社は、各部署からの報告に基づき経理部が適時に資金繰計画を作成・更新するとともに、手許流動性の維持などにより流動性リスクを管理しております。連結子会社においても、同様の管理を行っております。

(4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

2. 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については、次のとおりであります。

なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは含まれておりません（（注）2. 参照）。

前連結会計年度（2018年10月31日）

	連結貸借対照表 計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	15,432	15,432	-
(2) 受取手形及び売掛金	19,124	19,124	-
(3) 電子記録債権	4,875	4,875	-
(4) 有価証券及び投資有価証券	1,410	1,410	-
(5) 長期貸付金（ 1 ）	293	301	8
資産計	41,136	41,145	8
(1) 支払手形及び買掛金	23,688	23,688	-
(2) 短期借入金	115	115	-
(3) リース債務（ 2 ）	145	141	3
負債計	23,948	23,945	3

1 長期貸付金には、流動資産の「その他」に含めて表示している1年以内回収予定の長期貸付金を含めております。

2 リース債務には、1年以内返済予定のリース債務を含めております。

当連結会計年度（2019年10月31日）

	連結貸借対照表 計上額（百万円）	時価（百万円）	差額（百万円）
(1) 現金及び預金	15,972	15,972	-
(2) 受取手形及び売掛金	18,070	18,070	-
(3) 電子記録債権	6,137	6,137	-
(4) 有価証券及び投資有価証券	1,309	1,309	-
(5) 長期貸付金（ 1 ）	59	63	3
資産計	41,548	41,552	3
(1) 支払手形及び買掛金	23,537	23,537	-
(2) 短期借入金	105	105	-
(3) リース債務（ 2 ）	108	106	2
負債計	23,751	23,749	2

1 長期貸付金には、流動資産の「その他」に含めて表示している1年以内回収予定の長期貸付金を含めております。

2 リース債務には、1年以内返済予定のリース債務を含めております。

（注）1. 金融商品の時価の算定方法並びに有価証券に関する事項

資 産

(1) 現金及び預金、(2) 受取手形及び売掛金、(3) 電子記録債権

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(4) 有価証券及び投資有価証券

これらの時価について、株式等は取引所の価格によっており、債券は取引所の価格又は取引金融機関等から提示された価格によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する事項については、注記事項「有価証券関係」をご参照下さい。

(5) 長期貸付金

長期貸付金の時価については、元利金の合計額を、同様の新規貸付けを行った場合に想定される利率で割り引いて算定する方法によっております。

負債

(1) 支払手形及び買掛金、(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるものであるため、時価は帳簿価額と近似していることから、当該帳簿価額によっております。

(3) リース債務

時価については、元利金の合計額を、同様の新規リース取引を行った場合に想定される利率で割り引いた現在価値により算定しております。

2. 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

(単位：百万円)

区分	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当連結会計年度 (2019年10月31日)
非上場株式	18	17
預り保証金	171	155

非上場株式については、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、「(4) 有価証券及び投資有価証券」には含めておりません。

預り保証金については、契約の解約時期の見積りが困難なため、時価を把握することが極めて困難と認められることから、時価開示の対象としておりません。

3. 金銭債権及び満期のある有価証券の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度(2018年10月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	15,432	-	-	-
受取手形及び売掛金	19,124	-	-	-
電子記録債権	4,875	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期 があるもの				
(1) 債券(国債・地方債)	8	-	-	-
(2) 債券(その他)	40	-	-	10
(3) その他	-	58	28	-
長期貸付金	37	254	0	-
合計	39,518	312	29	10

当連結会計年度(2019年10月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超5年以内 (百万円)	5年超10年以内 (百万円)	10年超 (百万円)
現金及び預金	15,972	-	-	-
受取手形及び売掛金	18,070	-	-	-
電子記録債権	6,137	-	-	-
有価証券及び投資有価証券				
その他有価証券のうち満期 があるもの				
(1) 債券(国債・地方債)	-	-	-	-
(2) 債券(その他)	-	-	-	11
(3) その他	-	68	31	-
長期貸付金	12	46	-	-
合計	40,192	114	31	11

4. 短期借入金及びリース債務の連結決算日後の返済予定額

前連結会計年度(2018年10月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	115	-	-	-	-	-
リース債務	46	42	28	15	11	-
合計	161	42	28	15	11	-

当連結会計年度(2019年10月31日)

	1年以内 (百万円)	1年超 2年以内 (百万円)	2年超 3年以内 (百万円)	3年超 4年以内 (百万円)	4年超 5年以内 (百万円)	5年超 (百万円)
短期借入金	105	-	-	-	-	-
リース債務	45	30	17	13	1	-
合計	150	30	17	13	1	-



(有価証券関係)

1. 其他有価証券

前連結会計年度(2018年10月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,015	433	581
	(2) 債券			
	国債・地方債等	8	8	0
	社債	-	-	-
	その他	10	5	5
	(3) その他	139	120	19
	小計	1,173	567	606
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	178	208	30
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	40	49	9
	(3) その他	18	19	0
	小計	237	278	40
合計		1,410	845	565

当連結会計年度(2019年10月31日)

	種類	連結貸借対照表計上額(百万円)	取得原価(百万円)	差額(百万円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの	(1) 株式	1,121	587	534
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	11	5	6
	(3) その他	155	129	26
	小計	1,289	722	566
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの	(1) 株式	11	16	5
	(2) 債券			
	国債・地方債等	-	-	-
	社債	-	-	-
	その他	-	-	-
	(3) その他	9	9	0
	小計	20	25	5
合計		1,309	748	561

2. 売却したその他有価証券

前連結会計年度(自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	364	26	44
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	30	2	8
合計	394	28	53

当連結会計年度(自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)

種類	売却額(百万円)	売却益の合計額 (百万円)	売却損の合計額 (百万円)
(1) 株式	174	7	17
(2) 債券			
国債・地方債等	-	-	-
社債	-	-	-
その他	-	-	-
(3) その他	9	0	0
合計	184	8	17

3. 減損処理を行った有価証券

前連結会計年度及び当連結会計年度において、減損処理は行っていません。

なお、減損処理にあたっては、期末における時価が取得原価に比べ50%以上下落した場合には全て減損処理を行い、30~50%程度下落した場合には、回復可能性等を考慮して必要と認められた額について減損処理を行っております。

(デリバティブ取引関係)

該当事項はありません。

(退職給付関係)

1. 採用している退職給付制度の概要

当社については、退職一時金制度と確定拠出年金制度を併用しております。

連結子会社については、退職一時金制度を設けております。

また、当社及び連結子会社の従業員の退職等に際して割増退職金を支払う場合があります。

当社及び一部の連結子会社は上記以外に、複数事業主制度の企業年金基金制度に加入しており、このうち、自社の拠出に対応する年金資産の額を合理的に計算することができない制度については、確定拠出制度と同様に会計処理しております。

2. 確定給付制度

(1) 退職給付債務の期首残高と期末残高の調整表

	前連結会計年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当連結会計年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
退職給付債務の期首残高	1,747百万円	1,847百万円
勤務費用	154	157
利息費用	1	1
数理計算上の差異の発生額	1	20
退職給付の支払額	53	39
退職給付債務の期末残高	1,847	1,946

(注) 連結子会社は、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

(2) 退職給付債務と連結貸借対照表に計上された退職給付に係る負債の調整表

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当連結会計年度 (2019年10月31日)
非積立型制度の退職給付債務	1,847百万円	1,946百万円
連結貸借対照表に計上された負債の純額	1,847	1,946
退職給付に係る負債	1,847	1,946
連結貸借対照表に計上された負債の純額	1,847	1,946

(3) 退職給付費用及びその内訳項目の金額

	前連結会計年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当連結会計年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
勤務費用	154百万円	157百万円
利息費用	1	1
数理計算上の差異の費用処理額	50	48
その他	5	9
確定給付制度に係る退職給付費用	210	217

(注) 1. 簡便法を採用している連結子会社の退職給付費用は、「勤務費用」に計上しております。

2. 「その他」は、割増退職金であります。

(4) 退職給付に係る調整額

退職給付に係る調整額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当連結会計年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
数理計算上の差異	52百万円	69百万円

(5) 退職給付に係る調整累計額

退職給付に係る調整累計額に計上した項目(税効果控除前)の内訳は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当連結会計年度 (2019年10月31日)
未認識数理計算上の差異	130百万円	60百万円

(6) 数理計算上の計算基礎に関する事項  
 主要な数理計算上の計算基礎

	前連結会計年度 (2018年10月31日)	当連結会計年度 (2019年10月31日)
割引率	0.1%	0.1%

3. 確定拠出制度

当社及び連結子会社の確定拠出制度への要拠出額は、前連結会計年度32百万円、当連結会計年度33百万円であります。

4. 複数事業主制度

確定拠出制度と同様に会計処理する、複数事業主制度の厚生年金基金制度への要拠出額は、前連結会計年度32百万円、当連結会計年度32百万円であります。

(1) 複数事業主制度の直近の積立状況

大阪府電設工業企業年金基金

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当連結会計年度 (2019年3月31日)
年金資産の額	9,784百万円	9,562百万円
年金財政計算上の数理債務の額と 最低責任準備金の額との合計額	9,639	9,542
差引額	145	20

(2) 複数事業主制度の掛金に占める当社グループの割合

大阪府電設工業企業年金基金

前連結会計年度 5.1% (自 2017年4月1日 至 2018年3月31日)

当連結会計年度 5.2% (自 2018年4月1日 至 2019年3月31日)

(3) 補足説明

上記(1) 大阪府電設工業企業年金基金の当連結会計年度の差引額の主な要因は、別途積立金20百万円であります。

なお、上記(2) の割合は当社グループの実際の負担割合とは一致いたしません。

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

( 税効果会計関係 )

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 ( 2018年10月31日 )	当連結会計年度 ( 2019年10月31日 )
繰延税金資産		
繰越欠損金	72百万円	67百万円
未払事業税	46	43
減損損失	169	184
賞与引当金	185	191
退職給付に係る負債	564	594
役員退職慰労引当金	161	-
投資有価証券評価損	113	112
ゴルフ会員権評価損	26	26
貸倒引当金	148	117
その他	136	321
評価性引当額	607	587
計	1,018	1,071
繰延税金負債		
連結子会社土地評価差額	102	102
その他有価証券評価差額金	145	134
その他	50	50
計	298	287
繰延税金資産の純額	720	784

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前連結会計年度 ( 2018年10月31日 )	当連結会計年度 ( 2019年10月31日 )
法定実効税率	30.7%	法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間の差異が法定実効税率の100分の5以下であるため注記を省略しております。
( 調整 )		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.3	
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.1	
住民税均等割	0.7	
評価性引当額	3.6	
のれん償却額	0.2	
所得拡大促進税制による税額控除	0.9	
その他	0.3	
税効果会計適用後の法人税等の負担率	35.8	

( 資産除去債務関係 )

資産除去債務の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

( 賃貸等不動産関係 )

賃貸等不動産の総額に重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループは、「電線・ケーブル」の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【関連情報】

前連結会計年度(自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

当連結会計年度(自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)

1. 製品及びサービスごとの情報

単一の製品・サービスの区分の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

2. 地域ごとの情報

(1) 売上高

本邦の外部顧客への売上高が連結損益計算書の売上高の90%を超えるため、記載を省略しております。

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3. 主要な顧客ごとの情報

外部顧客への売上高のうち、連結損益計算書の売上高の10%以上を占める相手先がないため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

単一セグメントであるため、記載を省略しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

関連当事者との取引

連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 連結財務諸表提出会社の親会社及び法人主要株主(会社等の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
法人主要株 主の子会社	昭和電線ケー ブルシステム株式 会社	川崎市 川崎区	10,000	製造業	(被所有) 直接 0.04	商品の仕入	商品の購入	19,176	買掛金	5,868
							仕入割引	47	-	-

当連結会計年度(自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
法人主要株 主の子会社	昭和電線ケー ブルシステム株式 会社	川崎市 川崎区	10,000	製造業	(被所有) 直接 0.04	商品の仕入	商品の購入	20,419	買掛金	6,239
							仕入割引	49	-	-

(注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。

2. 取引条件及び取引条件の決定方針等

商品の購入については、一般の取引条件と同様に決定しております。

(イ) 連結財務諸表提出会社の役員及び主要株主(個人の場合に限る。)等

前連結会計年度(自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金又は 出資金 (百万円)	事業の内容 又は職業	議決権等の 所有(被所有) 割合(%)	関連当事者 との関係	取引内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員	西村 元秀	-	-	当社 代表取締役 社長	(被所有) 直接 8.10	-	金銭報酬 債権の現物 出資に伴う 自己株式の 処分(注)	11	-	-

(注) 譲渡制限付株式報酬制度に伴う、金銭報酬債権の現物出資によるものであります。

( 1株当たり情報 )

	前連結会計年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当連結会計年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
1株当たり純資産額	3,843.63円	4,094.81円
1株当たり当期純利益	236.36円	277.04円

- (注) 1. 潜在株式調整後1株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。  
 2. 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当連結会計年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	2,371	2,714
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益 (百万円)	2,371	2,714
普通株式の期中平均株式数(千株)	10,031	9,797

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

当社は、2019年12月9日開催の取締役会において、以下のとおり、会社法第165条第3項の規定により読み替えて適用される同法第156条の規定に基づき、自己株式取得に係る事項について決議いたしました。

1. 自己株式の取得を行う理由

株主還元の充実と資本効率の向上及び経営環境の変化に対応した機動的な資本政策を遂行するため

2. 取得に係る事項の内容

(1) 取得対象株式の種類

当社普通株式

(2) 取得し得る株式の総数

170,000株(上限)

(発行済株式総数(自己株式を除く)に対する割合1.76%)

(3) 株式の取得価額の総額

500百万円(上限)

(4) 取得期間

2019年12月10日から2020年4月30日まで

(5) 取得の方法

東京証券取引所における市場買付



【連結附属明細表】  
【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (百万円)	当期末残高 (百万円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	115	105	0.27	-
1年以内に返済予定の長期借入金	-	-	-	-
1年以内に返済予定のリース債務	46	45	-	-
長期借入金(1年以内に返済予定のものを除く。)	-	-	-	-
リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)	98	63	-	2020年～2024年
その他有利子負債 預り保証金(1年超)	21	22	0.46	-
合計	281	235	-	-

- (注) 1. 「平均利率」については、期末残高に対する加重平均利率を記載しております。  
2. リース債務の平均利率については、リース料総額に含まれる利息相当額を控除する前の金額でリース債務を連結貸借対照表に計上しているため、記載しておりません。  
3. その他有利子負債の「預り保証金(1年超)」については、取引上の営業保証金であり、取引継続中は特に返済期限はありません。  
4. リース債務(1年以内に返済予定のものを除く。)の連結決算日後5年間の返済予定額は以下のとおりであります。

	1年超2年以内 (百万円)	2年超3年以内 (百万円)	3年超4年以内 (百万円)	4年超5年以内 (百万円)
リース債務	30	17	13	1

【資産除去債務明細表】

当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における資産除去債務の金額が、当連結会計年度期首及び当連結会計年度末における負債及び純資産の合計額の100分の1以下であるため、連結財務諸表規則第92条の2の規定により記載を省略しております。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高(百万円)	21,367	42,404	63,085	83,676
税金等調整前四半期(当期) 純利益(百万円)	1,140	2,212	3,104	4,019
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	767	1,520	2,107	2,714
1株当たり四半期(当期) 純利益(円)	77.44	153.93	214.30	277.04

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純利益 (円)	77.44	76.54	60.16	62.73

## 2【財務諸表等】

## (1)【財務諸表】

## 【貸借対照表】

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年10月31日)	当事業年度 (2019年10月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	12,940	13,098
受取手形	2 5,910	2 5,084
電子記録債権	4,752	6,008
売掛金	2 12,328	2 12,242
有価証券	48	-
商品	3,534	3,617
前払費用	2 53	2 69
その他	2 428	2 305
貸倒引当金	51	4
流動資産合計	39,944	40,420
固定資産		
有形固定資産		
建物	4,625	6,525
構築物	131	261
機械及び装置	262	490
車両運搬具	0	0
工具、器具及び備品	54	81
土地	4 8,487	4 10,414
リース資産	103	84
建設仮勘定	3,465	0
有形固定資産合計	17,130	17,859
無形固定資産		
電話加入権	16	16
水道施設利用権	3	3
ソフトウェア	141	126
リース資産	30	17
無形固定資産合計	191	163
投資その他の資産		
投資有価証券	1,334	1,285
関係会社株式	2,663	2,544
出資金	5	5
長期貸付金	255	46
関係会社長期貸付金	330	280
破産更生債権等	419	356
長期前払費用	87	90
差入保証金	180	147
保険積立金	1,379	1,499
繰延税金資産	779	861
その他	1,220	1,198
貸倒引当金	552	489
投資その他の資産合計	8,102	7,824
固定資産合計	25,424	25,847
資産合計	65,369	66,268

(単位：百万円)

	前事業年度 (2018年10月31日)	当事業年度 (2019年10月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	2 23,230	2 23,155
リース債務	40	42
未払金	2 411	2 284
未払費用	234	286
未払法人税等	749	682
未払消費税等	-	219
預り金	22	22
前受収益	1	2
賞与引当金	546	553
その他	137	92
流動負債合計	25,376	25,342
固定負債		
リース債務	94	61
退職給付引当金	1,595	1,760
役員退職慰労引当金	512	-
資産除去債務	6	6
預り保証金	171	155
その他	-	511
固定負債合計	2,380	2,496
負債合計	27,757	27,838
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	2,575	2,575
資本剰余金		
資本準備金	3,372	3,372
その他資本剰余金	0	14
資本剰余金合計	3,372	3,386
利益剰余金		
利益準備金	166	166
その他利益剰余金		
別途積立金	30,366	31,975
繰越利益剰余金	2,206	2,177
利益剰余金合計	32,739	34,319
自己株式	1,482	2,270
株主資本合計	37,203	38,010
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	408	419
評価・換算差額等合計	408	419
純資産合計	37,612	38,429
負債純資産合計	65,369	66,268

## 【損益計算書】

(単位：百万円)

	前事業年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当事業年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
売上高	1 77,131	1 78,750
売上原価	1 65,848	1 67,162
売上総利益	11,282	11,587
販売費及び一般管理費	1, 2 7,651	1, 2 7,930
営業利益	3,630	3,656
営業外収益		
受取利息	1 10	1 5
受取配当金	44	39
受取家賃	1 85	1 95
仕入割引	47	49
その他	1 120	1 109
営業外収益合計	309	298
営業外費用		
支払利息	0	0
その他	95	96
営業外費用合計	96	97
経常利益	3,844	3,858
特別利益		
固定資産売却益	-	8
受取保険金	82	-
特別利益合計	82	8
特別損失		
固定資産除却損	-	120
減損損失	488	53
子会社株式評価損	-	292
投資有価証券売却損	13	-
特別損失合計	501	466
税引前当期純利益	3,425	3,400
法人税、住民税及び事業税	1,259	1,250
法人税等調整額	38	72
法人税等合計	1,221	1,178
当期純利益	2,204	2,222

【株主資本等変動計算書】

前事業年度（自 2017年11月1日 至 2018年10月31日）

（単位：百万円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
						別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	2,575	3,372	0	3,372	166	28,572	2,299	31,038	1,008	35,976
当期変動額										
別途積立金の積立						1,794	1,794	-		-
剰余金の配当							252	252		252
剰余金の配当（中間配当）							250	250		250
当期純利益							2,204	2,204		2,204
自己株式の取得									473	473
自己株式の処分										-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	-	-	-	1,794	92	1,701	473	1,227
当期末残高	2,575	3,372	0	3,372	166	30,366	2,206	32,739	1,482	37,203

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	544	544	36,521
当期変動額			
別途積立金の積立			-
剰余金の配当			252
剰余金の配当（中間配当）			250
当期純利益			2,204
自己株式の取得			473
自己株式の処分			-
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	136	136	136
当期変動額合計	136	136	1,090
当期末残高	408	408	37,612

当事業年度（自 2018年11月1日 至 2019年10月31日）

（単位：百万円）

	株主資本									
	資本金	資本剰余金			利益剰余金				自己株式	株主資本合計
		資本準備金	その他資本剰余金	資本剰余金合計	利益準備金	その他利益剰余金		利益剰余金合計		
						別途積立金	繰越利益剰余金			
当期首残高	2,575	3,372	0	3,372	166	30,366	2,206	32,739	1,482	37,203
当期変動額										
別途積立金の積立						1,609	1,609	-		-
剰余金の配当							298	298		298
剰余金の配当（中間配当）							343	343		343
当期純利益							2,222	2,222		2,222
自己株式の取得									821	821
自己株式の処分			14	14					33	47
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）										
当期変動額合計	-	-	14	14	-	1,609	29	1,579	788	806
当期末残高	2,575	3,372	14	3,386	166	31,975	2,177	34,319	2,270	38,010

	評価・換算差額等		純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計	
当期首残高	408	408	37,612
当期変動額			
別途積立金の積立			-
剰余金の配当			298
剰余金の配当（中間配当）			343
当期純利益			2,222
自己株式の取得			821
自己株式の処分			47
株主資本以外の項目の 当期変動額（純額）	11	11	11
当期変動額合計	11	11	817
当期末残高	419	419	38,429

【注記事項】

(重要な会計方針)

1. 資産の評価基準及び評価方法

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

子会社株式.....移動平均法による原価法

その他有価証券

時価のあるもの.....決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

時価のないもの.....移動平均法による原価法

(2) たな卸資産の評価基準及び評価方法

商品.....移動平均法による原価法（貸借対照表価額は収益性の低下に基づく簿価切下げの方法により算定）

2. 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産（リース資産を除く）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 8～50年

機械及び装置 10～17年

(2) 無形固定資産（リース資産を除く）

定額法を採用しております。

なお、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づいております。

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法を採用しております。

(4) 投資その他の資産

その他（投資不動産）

定率法を採用しております。ただし、1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法を採用しております。

なお、主な耐用年数は次のとおりであります。

建物 15～47年

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 賞与引当金

従業員に対して支給する賞与に備えるため、当事業年度に負担すべき支給見込額を基準として計上しております。

(3) 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務の見込額に基づき計上しております。

退職給付引当金及び退職給付費用の処理方法は以下のとおりであります。

退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

数理計算上の差異の費用処理方法

数理計算上の差異については、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定の年数（5年）による定額法により按分した額を、それぞれ発生の翌事業年度から費用処理しております。

## 4. その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

## (1) 退職給付に係る会計処理

退職給付に係る未認識数理計算上の差異の会計処理の方法は、連結財務諸表における会計処理の方法と異なっております。

## (2) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は、税抜方式によっております。

## (3) 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

## (表示方法の変更)

## (「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)を当事業年度の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示する方法に変更しております。

この結果、前事業年度の貸借対照表において、「流動資産」の「繰延税金資産」316百万円は、「投資その他の資産」の「繰延税金資産」779百万円に含めて表示しております。

## (追加情報)

## (役員退職慰労金制度の廃止)

2019年1月30日開催の第69期定時株主総会において、役員退職慰労金制度の廃止に伴う打ち切り支給を決議しております。支給時期につきましては、各取締役及び監査役の退任時とする予定であります。

これに伴い、「役員退職慰労引当金」の全額を取崩し、打ち切り支給に伴う未払額511百万円を固定負債の「その他」に含めて表示しております。

## (貸借対照表関係)

## 1. 債務保証

次の関係会社の仕入債務に対し、債務保証を行っております。

	前事業年度 (2018年10月31日)	当事業年度 (2019年10月31日)
SENSHU ELECTRIC INTERNATIONAL CO.,LTD.	10百万円	8百万円

## 2. 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)

	前事業年度 (2018年10月31日)	当事業年度 (2019年10月31日)
短期金銭債権	462百万円	363百万円
短期金銭債務	71	55

## 3. 当座貸越契約

運転資金の効率的な調達を行うため、取引銀行5行と当座貸越契約を締結しております。当座貸越契約に係る借入未実行残高は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年10月31日)	当事業年度 (2019年10月31日)
当座貸越極度額の総額	3,000百万円	3,000百万円
借入実行残高	-	-
差引額	3,000	3,000

## 4. 圧縮記帳額

有形固定資産の取得価額から控除している圧縮記帳額は、次のとおりであります。

	前事業年度 (2018年10月31日)	当事業年度 (2019年10月31日)
土地	76百万円	76百万円



(損益計算書関係)

1. 関係会社との取引高

	前事業年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当事業年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
営業取引による取引高		
売上高	556百万円	492百万円
仕入高	395	289
有償支給高	109	89
営業取引以外の取引による取引高	227	255

2. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額並びにおおよその割合は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 2017年11月1日 至 2018年10月31日)	当事業年度 (自 2018年11月1日 至 2019年10月31日)
運賃及び荷造費	1,191百万円	1,230百万円
給料及び手当	2,186	2,294
賞与引当金繰入額	546	553
退職給付費用	261	265
役員退職慰労引当金繰入額	42	8
減価償却費	329	453
貸倒引当金繰入額(は戻入額)	8	56
おおよその割合		
販売費	65.8%	64.5%
一般管理費	34.2	35.5

(有価証券関係)

子会社株式(当事業年度の貸借対照表計上額は2,544百万円、前事業年度の貸借対照表計上額は2,663百万円)は、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから、記載しておりません。

(税効果会計関係)

1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前事業年度 (2018年10月31日)	当事業年度 (2019年10月31日)
繰延税金資産		
貸倒引当金	168百万円	134百万円
賞与引当金	166	169
投資有価証券評価損及び関係会社株式評価損	180	267
未払事業税	42	39
退職給付引当金	487	537
役員退職慰労引当金	156	-
ゴルフ会員権評価損	19	19
減損損失	169	184
その他	93	281
評価性引当額	565	645
繰延税金資産合計	918	988
繰延税金負債		
その他有価証券評価差額金	139	126
繰延税金負債合計	139	126
繰延税金資産の純額	779	861

2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

	前事業年度 (2018年10月31日)	当事業年度 (2019年10月31日)
法定実効税率	30.7%	30.5%
(調整)		
交際費等永久に損金に算入されない項目	1.4	1.3
受取配当金等永久に益金に算入されない項目	0.0	0.0
住民税均等割	0.7	0.6
評価性引当額	3.6	2.3
所得拡大促進税制による税額控除	1.0	-
その他	0.3	0.1
税効果会計適用後の法人税等の負担率	35.7	34.6

(重要な後発事象)

(自己株式の取得)

連結財務諸表の注記事項(重要な後発事象)における記載内容と同一であるため、記載を省略しております。

【附属明細表】

【有形固定資産等明細表】

(単位：百万円)

区分	資産の種類	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期償却額	当期末残高	減価償却累計額
有形固定資産	建物	8,062	2,193	398	246	9,857	3,331
	構築物	410	149	42	20	517	256
	機械及び装置	979	307	37	78	1,249	759
	車両運搬具	9	-	4	-	4	4
	工具、器具及び備品	243	53	33	26	263	182
	土地	8,487	2,061	134	-	10,414	-
	リース資産	168	9	5	28	172	87
	建設仮勘定	3,465	1,550	5,014	-	0	-
	計	21,826	6,324	5,670	400	22,480	4,621
無形固定資産	電話加入権	16	-	-	-	16	-
	水道施設利用権	10	-	0	0	10	7
	ソフトウェア	461	31	1	45	491	364
	リース資産	64	-	-	12	64	46
		計	553	31	1	59	582

(注) 1. 当期首残高及び当期末残高については、取得価額で記載しております。

2. 建物の当期増加額のうち主なものは、大阪本店大阪物流センター1,607百万円、東京西営業所新事務所553百万円であります。
3. 土地の当期増加額のうち主なものは、大阪本店大阪物流センター1,600百万円、東京西営業所新事務所460百万円であります。
4. 建設仮勘定の当期増加額のうち主なものは、大阪本店大阪物流センター1,020百万円、東京西営業所新事務所482百万円であります。
5. 建設仮勘定の当期減少額のうち主なものは、大阪本店大阪物流センター3,820百万円、東京西営業所新事務所1,143百万円であります。

【引当金明細表】

(単位：百万円)

科目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
貸倒引当金	604	8	118	494
賞与引当金	546	553	546	553
役員退職慰労引当金	512	8	521	-

(2) 【主な資産及び負債の内容】

連結財務諸表を作成しているため、記載を省略しております。

(3) 【その他】

該当事項はありません。

## 第6【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	11月1日から10月31日まで
定時株主総会	1月中
基準日	10月31日
剰余金の配当の基準日	4月30日、10月31日
1単元の株式数	100株
単元未満株式の買取り・買増し	(特別口座)
取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
取次所	-
買取・買増手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	電子公告とする。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行う。 公告掲載URL <a href="https://www.senden.co.jp/">https://www.senden.co.jp/</a>
株主に対する特典	株主優待制度 (毎年10月31日現在の株主名簿に記載又は記録された株主の内、1単元(100株)以上を1年未満保有の株主には1,000円分のオリジナルQ U Oカードを贈呈、1単元(100株)以上を1年以上保有の株主には2,000円分のオリジナルQ U Oカードを贈呈)

(注) 当社定款の定めにより、単元未満株主は、会社法第189条第2項各号に掲げる権利、会社法第166条第1項の規定による請求をする権利、株主の有する株式数に応じて募集株式の割当て及び募集新株予約権の割当てを受ける権利並びに単元未満株式の買増しをする権利以外の権利を有していません。

## 第7【提出会社の参考情報】

### 1【提出会社の親会社等の情報】

当社は、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

### 2【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

- (1) 有価証券報告書及びその添付書類並びに確認書  
事業年度（第69期）（自 2017年11月 1 日 至 2018年10月31日）2019年 1月31日近畿財務局長に提出。
- (2) 内部統制報告書及びその添付書類  
2019年 1月31日近畿財務局長に提出。
- (3) 四半期報告書及び確認書  
（第70期第1四半期）（自 2018年11月 1 日 至 2019年 1月31日）2019年 3月11日近畿財務局長に提出。  
（第70期第2四半期）（自 2019年 2月 1 日 至 2019年 4月30日）2019年 6月11日近畿財務局長に提出。  
（第70期第3四半期）（自 2019年 5月 1 日 至 2019年 7月31日）2019年 9月10日近畿財務局長に提出。
- (4) 臨時報告書  
2019年 2月 1 日近畿財務局長に提出。  
企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使結果）に基づく報告書であります。
- (5) 自己株券買付状況報告書  
報告期間（自 2019年 1月 1 日 至 2019年 1月31日）2019年 2月 5 日近畿財務局長に提出。  
報告期間（自 2019年 2月 1 日 至 2019年 2月28日）2019年 3月 6 日近畿財務局長に提出。  
報告期間（自 2019年 3月 1 日 至 2019年 3月31日）2019年 4月 9 日近畿財務局長に提出。  
報告期間（自 2019年 4月 1 日 至 2019年 4月30日）2019年 5月15日近畿財務局長に提出。  
報告期間（自 2019年 6月 1 日 至 2019年 6月30日）2019年 7月 5 日近畿財務局長に提出。  
報告期間（自 2019年 7月 1 日 至 2019年 7月31日）2019年 8月 1 日近畿財務局長に提出。  
報告期間（自 2019年 8月 1 日 至 2019年 8月31日）2019年 9月 3 日近畿財務局長に提出。  
報告期間（自 2019年 9月 1 日 至 2019年 9月30日）2019年10月 4 日近畿財務局長に提出。  
報告期間（自 2019年10月 1 日 至 2019年10月31日）2019年11月11日近畿財務局長に提出。  
報告期間（自 2019年12月 1 日 至 2019年12月31日）2020年 1月10日近畿財務局長に提出。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

2020年1月31日

泉州電業株式会社

取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高木 勇 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 土居 一彦 印

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている泉州電業株式会社の2018年11月1日から2019年10月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、泉州電業株式会社及び連結子会社の2019年10月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### < 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、泉州電業株式会社の2019年10月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

#### 内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、泉州電業株式会社が2019年10月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

---

上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が連結財務諸表に添付する形で別途保管しております。

X B R L データは監査の対象には含まれていません。



## 独立監査人の監査報告書

2020年1月31日

泉州電業株式会社

取締役会 御中

### 太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 高木 勇 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 土居 一彦 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられている泉州電業株式会社の2018年11月1日から2019年10月31日までの第70期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

#### 財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、泉州電業株式会社の2019年10月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

---

上記は監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社が財務諸表に添付する形で別途保管しております。

X B R L データは監査の対象には含まれていません。